

宮川流域下水道（宮川処理区）

宮川浄化センターの維持管理

- (1) 施 設 配 置 図
- (2) 幹 線 管 渠 状 況 図
- (3) 施 設 計 画 と 現 況
- (4) 設 備 概 要
- (5) 処 理 フ ロ ー
- (6) 水 質 管 理 状 況
- (7) 汚 水 処 理 水 量
- (8) 電 力 ・ 水 道 ・ 薬 品 ・ 燃 料
- (9) 汚 泥 脱 水 処 理
- (10) 施 設 点 検 業 務 の 概 要
- (11) 水 質 試 験 業 務
- (12) 周 辺 環 境 調 査

(1) 宮川浄化センター施設配置図

経過の概要

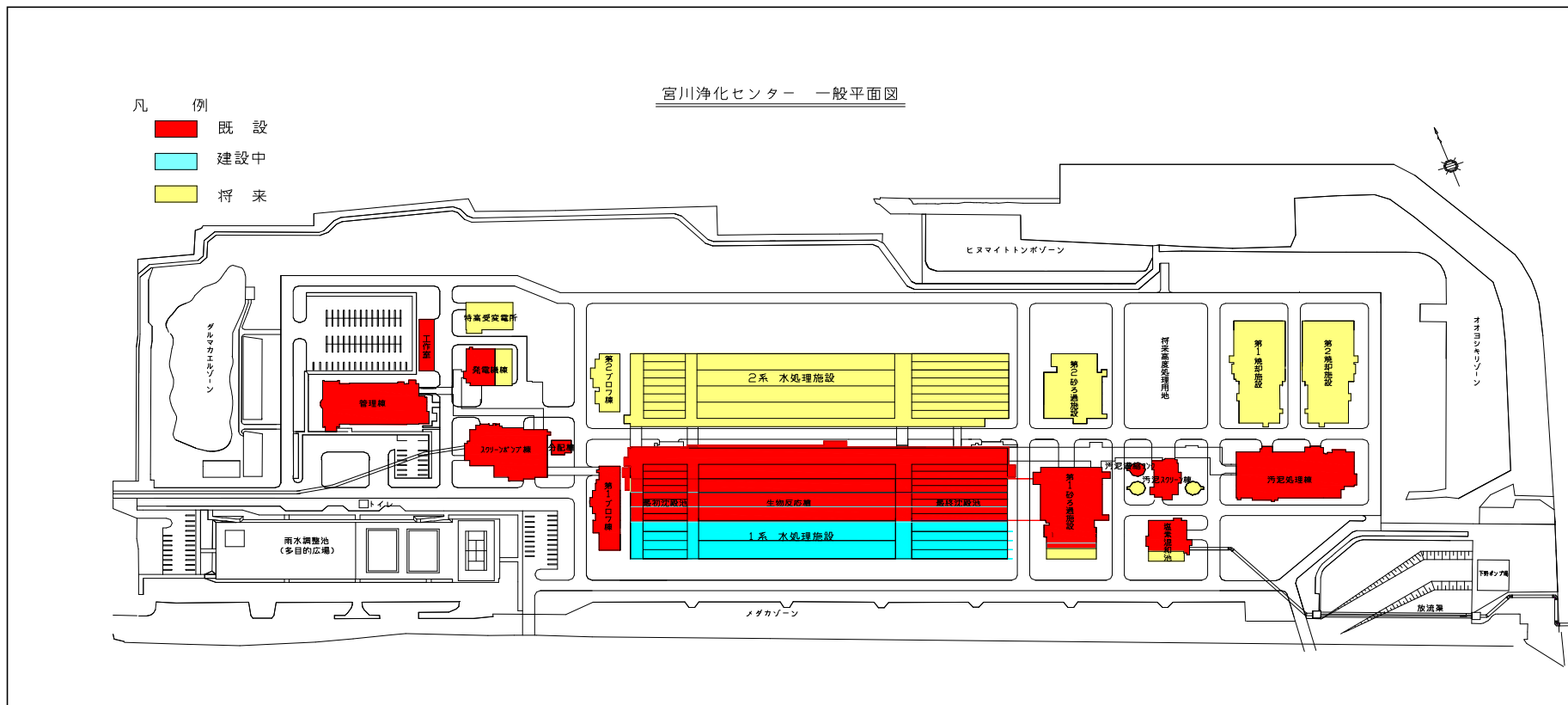
平成10年 8月11日	宮川流域下水道(宮川処理区)都市計画決定
平成10年12月 2日	都市計画法による事業認可
平成11年 3月26日	下水道法による事業認可
平成14年 3月20日	幹線管渠工事着工(外宮2・宮川2工区)
平成14年 6月28日	処理場土木建築工事着工(SP棟・水処理)
平成16年 6月23日	処理場機械・電気設備工事着工
平成17年11月 1日	伊勢市、二見町、小俣町、御園村 合併
平成18年 5月27日	供用開始記念式典
平成18年 6月 1日	供用開始(伊勢市の一部)
平成21年 6月 2日	2池水処理施設完成
平成22年 2月 2日	下水道法による事業変更認可
平成22年 9月 1日	2池水処理施設供用開始
平成23年 5月31日	下水道法による事業変更認可(池容量等変更)
平成23年 9月13日	3池水処理施設完成
平成24年 3月19日	下水道法による事業変更認可(池容量等変更)
平成25年 2月 3日	4池水処理施設完成

計画概要

項目	区分	全体計画	認可計画
処理区域面積(ha)		4,674.0	2,073.8
処理区域内人口(人)		139,830	65,676
処理能力(m ³ /日最大)		75,600	35,600
処理方法		嫌気・無酸素・好気法+凝集剤添加+急速ろ過法	
排除方式		分流式	
処理場敷地(ha)		19.27	19.27

関連公共下水道の内訳

市町村名	計画処理面積(ha)	処理区域内人口(人)	計画処理水量(m ³)
伊勢市	3,558.0	109,400	60,779
明和町	654.0	17,320	7,731
玉城町	462.0	13,110	6,849
合計	4,674.0	139,830	75,359

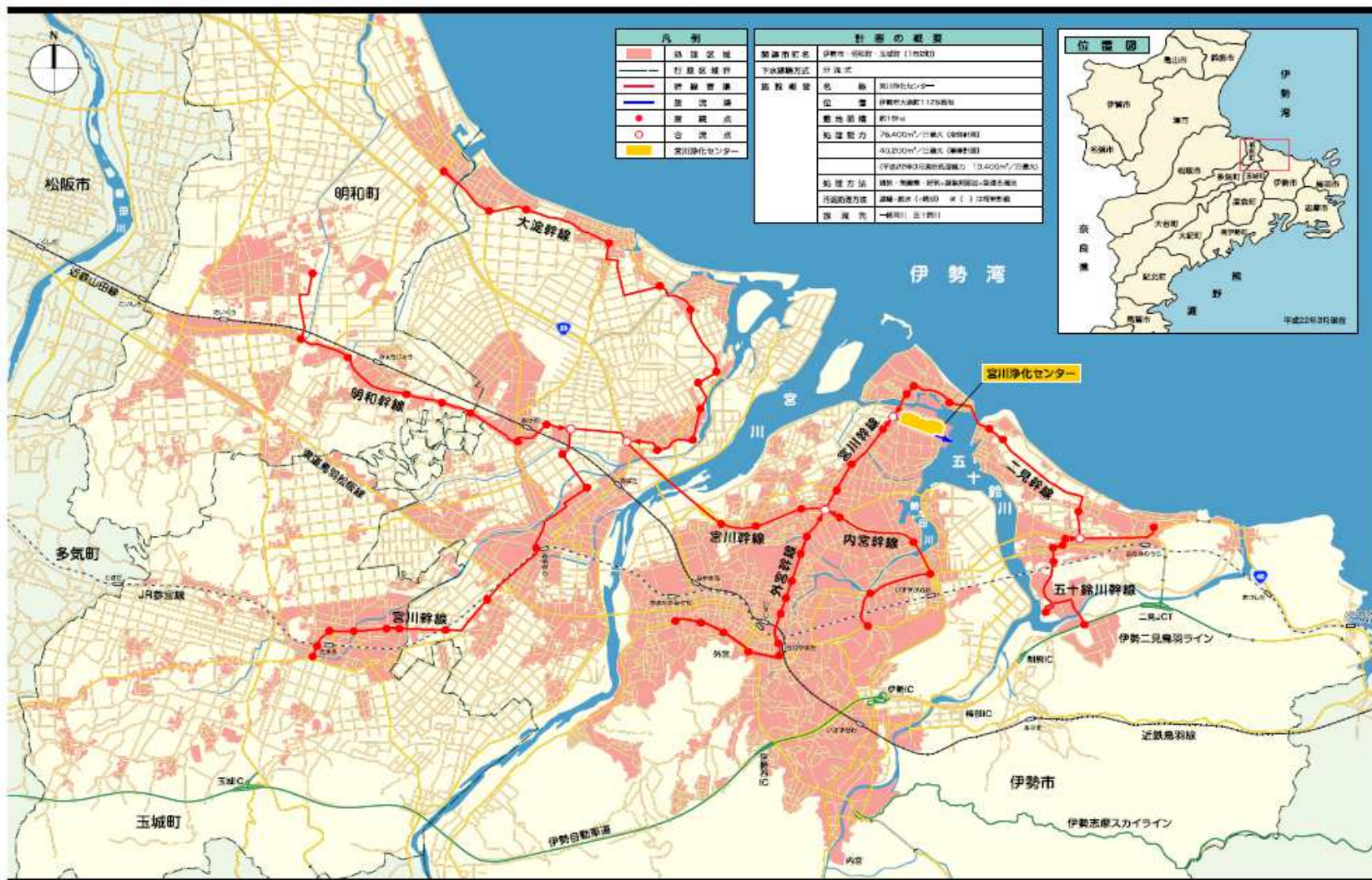


(2) 宮川処理区幹線管渠状況図

(供用開始延長: 累計延長)

8幹線	管径150~1,650mm	総延長	46.8km
-----	---------------	-----	--------

幹線名	宮川	内宮	外宮	二見	明和	大淀	五十鈴川	放流渠	計
管径(mm)	1,650 ~800	1,000 ~600	1,000 ~900	800 ~300	800 ~300	600 ~150	440 ~150	1,500 ~1,350	
延長(km)	14.0	3.8	4.6	6.2	6.3	9.3	2.5	0.1	46.8
H25年度 末	(100.00%) 14.0	(5.26%) 0.2	(100.00%) 4.6	(100.00%) 6.2	(15.87%) 1.0	(0.00%) 0.0	(32.00%) 0.8	(100.00%) 0.1	(57.48%) 26.9



(3) 施設計画と現況

形状区分 名称	形状寸法	全体計画	平成25年度末現在		
			土木建築	機械電気	摘要
スクリーン	水路幅1.5m	2水路	2水路	1水路	
初期用ポンプ	3.0m ³ /min	1台	—	1台	
主ポンプ	12.0m ³ /min	2台	—	2台	
	14.0m ³ /min	2台	—	1台	
	25.0m ³ /min	2台	—	—	
最初沈殿池	L= 19.0m W=3.9m 有効水深 3.0m	8池	8池	8池	
	L= 19.0m W=4.9m 有効水深 3.0m	4池	—	—	
	L= 19.0m W=4.4m 有効水深 3.0m	4池	—	—	
反応槽(嫌気槽)	L= 9.0m W=8.0m 有効水深 5.5m	4池	4池	4池	
	L= 9.0m W=10.0m 有効水深 5.5m	2池	—	—	
	L= 8.7m W=9.0m 有効水深 5.5m	4池	—	—	
反応槽(無酸素)	L= 45.0m W=8.0m 有効水深 5.5m	4池	4池	4池	
	L= 47.1m W=10.0m 有効水深 5.5m	2池	—	—	
	L= 46.5m W=9.0m 有効水深 5.5m	4池	—	—	
反応槽(好気槽)	L= 45.0m W=8.0m 有効水深 5.5m	4池	4池	4池	
	L= 45.3m W=10.0m 有効水深 5.5m	2池	—	—	
	L= 46.5m W=9.0m 有効水深 5.5m	4池	—	—	
最終沈殿池	L= 47.0m W=3.9m 有効水深 3.5m	8池	8池	8池	
	L= 47.0m W=4.9m 有効水深 3.5m	4池	—	—	
	L= 47.0m W=4.4m 有効水深 3.5m	4池	—	—	
急速ろ過池 (砂ろ過池)	10m ²	1池	1池	1池	
	15m ²	1池	1池	1池	
	25m ²	5池	3池	3池	
	30m ²	4池	—	—	
塩素混和池	L= 81.3m W=3.0m 有効水深2.5m	2池	1池	1池	
次亜塩素酸ソーダ 貯留槽	5m ³	4槽	—	1槽	
送風機	29m ³ /min	2台	—	2台	
	51m ³ /min	1台	—	1台	
	60m ³ /min	2台	—	1台	
汚泥重力濃縮タンク	φ7.5m H 4.0m	3槽	1槽	1槽	
脱水機	造粒調質式ベルトプレス ろ布幅 1.5m ろ過速度 180kgDS/m/h	4台	—	3台	
自家発電機	2,000kVA ガスタービン	2台	—	1台	
幹線管渠	φ150mm～φ1,650mm	46.7km	26.8km	—	
放流渠	φ1,350mm～φ1,500mm	0.1km	0.1km	—	

(4)設備概要

施設	設備	機器名	規格又は仕様	電気容量 (kw)	台数
ポンプ室	スクリーン	No.1,2SP棟流入ゲート	外ネジ式鋳鉄製電動ゲート、800W×1500H	5.5	2
		No.1,2粗目スクリーン	鋼製バースクリーン目幅100mm×取付角度90°	—	2
	粗目スクリーン	粗目スクリーン吊上装置	電動式チェーンブロック、2ton×9m	1.7	1
		No.1細目スクリーン除塵機	連続式自動除塵機目幅20mm×取付角度70°	2.2	1
	ポンプ井	No.1,2ポンプ井流入ゲート	外ネジ式鋳鉄製手動ゲート、800W×1500H	—	2
		ポンプ井連通ゲート	外ネジ式鋳鉄製手動ゲート、1200W×1200H	—	1
	スクリーン	No.1スクリーンかす搬出機	トラフ形ベルトコンベヤ 600W×10500L	1.5	1
		スクリーンかす洗浄機	機械攪拌式、1m3/時	3.7+0.75	1
	スクリーン	スクリーンかす脱水機	スクリュー式、1ton/時	5.9	1
		No.2スクリーンかす搬出機	耳棧横棧付垂直ベルトコンベヤ 幅610×水平6.6m垂直28.35m	7.5	1
	スクリーン	スクリーンかす用ホッパ	電動カットゲート式ホッパ、5m3	0.75×2	1
		No.1ポンプ井攪拌機	水中プロペラ式、500Φ	7.4	1
	ポンプ井	No.1ポンプ井攪拌機吊上装置	手動式ギヤードトロッ式チェーンブロック、0.5ton×9m	—	1
		No.1搬入用ホイスト	電動トロッ付ホイスト、2.9ton×19m	4.0+0.75	1
	スクリーン	No.2搬入用チェーンブロック	電動式チェーンブロック、2.9ton×13m	3.4+0.75	1
		砂ろ過水切替弁(スクリーン)	電動ボール弁、125Φ	85W	1
	SP棟	SP棟給水ユニット	圧力式自動給水ユニット 65Φ×410L/分×44m	7.5	1
		雨水排水槽	鋼板製角形槽、1m3	—	1
	雨水	雨水排水ポンプ	無閉塞形汚泥ポンプ 80Φ×0.15m3/分×14m	2.2	1
		維持管理用ホイスト	電動トロッ付ホイスト、1ton×35m	3.5+0.75	1
	脱臭設備	スクリーン室脱臭ファン	片吸込ターボファン 56m3/分×1.96kPa	3.7	1
		スクリーン室脱臭装置	添着活性炭吸着塔、40m3/分	—	1
		SP棟搬出室脱臭ファン	片吸込ターボファン 44m3/分×1.96kPa	3.7	1
		SP棟搬出室脱臭装置	添着活性炭吸着塔、44m3/分	—	1
		SP棟搬出室脱臭切替ダンパ	電動ダンパ、350×350	0.04	1
		活性炭搬出入クレーン(スクリーン)	手動式ギヤードトロッ付、1ton×5.5m	—	1
	主ポンプ	No.1～2主ポンプ	立軸渦巻斜流ポンプ 350Φ×12m3/分×27m	—	2
		No.1～2主ポンプ用電動機	かご形三相誘導、6P、90kW	90.0	2
		No.1～2主ポンプ吐出弁	外ネジ式電動仕切弁、350Φ	1.5	2
		No.3主ポンプ	立軸渦巻斜流ポンプ 350Φ×14m3/分×27m	—	1
		No.3主ポンプ用電動機	かご形三相誘導、6P、110kW	110.0	1
		No.3主ポンプ吸込弁	外ネジ式手動仕切弁、450Φ	—	1
		No.3主ポンプ吐出弁	外ネジ式電動仕切弁、450Φ	1.5	1
		ポンプ井排水ポンプ	吸込スクリュー付汚水ポンプ 200Φ×3m3/分×26m	37.0	1
		No.1,2床排水ポンプ(ポンプ室)	脱着式水中汚水ポンプ 65Φ×0.3m3/分×13m	1.5	2
		床排水ポンプ吊上装置(ポンプ室)	手動式チェーンブロック、0.5ton×2.5m	—	1
		天井クレーン	手動走行式クレーン(チェーンブロック式)、5ton×22m	—	1
		維持管理用チェーンブロック	電動式チェーンブロック、2.9ton×21m	3.0	1
		砂ろ過水切替弁(ポンプ)	電動式ボール弁、125Φ	85W	1
		ポンプ室軸封水用処理水槽	FRP製、5m3	—	1
		ポンプ室軸封水用給水ユニット	圧力式自動給水ユニット40Φ×80L/分×55m	3.7	1
		No.1,2汚水管仕切弁	手動バタ弁、600Φ	—	2
		汚水管連通弁	手動バタ弁、900Φ	—	1
水処理施設	分配槽設備	No.1,2分配槽攪拌機	水中プロペラ式(浮遊式)、113Φ	2.2	2
		No.1,2分配槽攪拌機吊上装置	手動式ギヤードトロッ無し、0.5ton×3m	—	2
		No.1-1～2-2床排水ポンプ(管理本館～SP棟)	脱着式水中汚水ポンプ 65Φ×0.3m3/分×8m	1.5	4
		No.1,2床排水ポンプ吊上装置(管理本館～SP棟)	手動式、0.5ton×2.5m	—	2
		西側植樹用給水ユニット	圧力式自動給水ユニット40Φ×0.23m3/分×46m	3.7	1
	最初沈	1系No.1初沈バイパスゲート	手動式鋳鉄製外ねじ式、800W×600H	—	1
		1系No.1-1～4-2初沈流入可動堰	手動式鋳鉄製外ねじ式、400W×400H	—	8
		1系No.1-1～4-2初沈汚泥掻寄機	チェーンフライト式、3900W×19000L	0.4	8

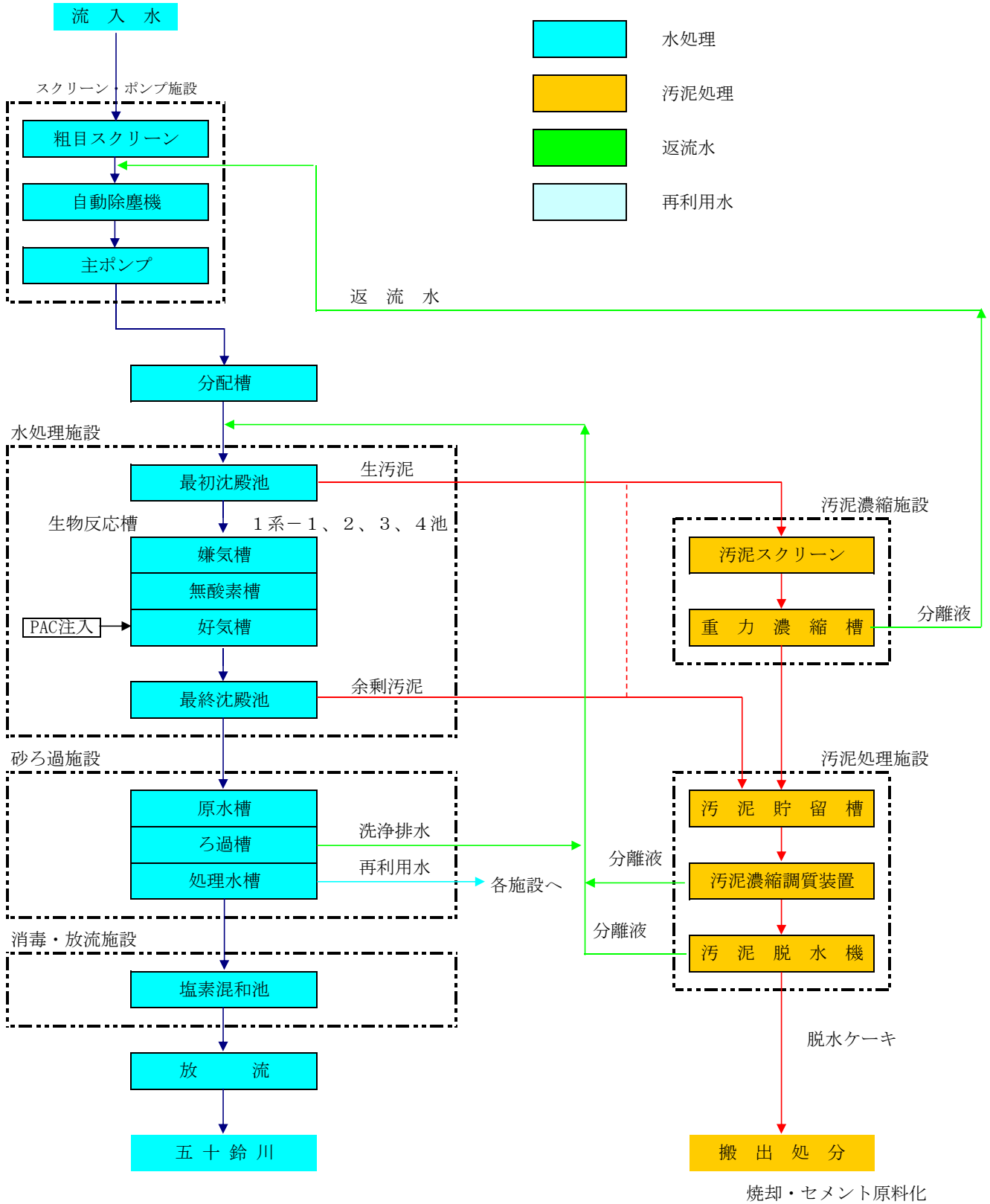
殿池設備	1系No.1-1~4-2初沈スカムスキマ	電動式パイプスキマ、300Φ	0.13	8	
	1系No.1-1~4-2初沈汚泥引抜弁	空気作動偏心構造弁、150Φ	—	8	
	1系No.1-1,1-2初沈汚泥ポンプ	吸込スクリー付汚泥ポンプ、100Φ×1m ³ /分×17m	7.5	2	
	1系No.1-1,1-2初沈スカム移送ポンプ	吸込スクリー付汚泥ポンプ、100Φ×1m ³ /分×19m	7.5	2	
	1系No.1初沈スカム戻り弁	空気作動偏心構造弁、150Φ	—	1	
	1系No.1初沈スカム移送弁	空気作動偏心構造弁、150Φ	—	1	
	1系初沈排水ポンプ	吸込スクリー付汚泥ポンプ、100Φ×1m ³ /分×8m	3.7	1	
	1系No.1床排水ポンプ(初沈)	着脱式水中汚水ポンプ、65Φ×0.3m ³ /分×13m	2.2	1	
	1系No.1,2空気源装置(初沈)	圧力スイッチ式、120L/分×0.83MPa	1.5	2	
	1系No.1,2空気源装置(終沈)	圧力スイッチ式、120L/分×0.83MPa	1.5	2	
	1系空気槽(初沈)	立形円筒槽、1m ³	—	1	
	1系空気槽(終沈)	立形円筒槽、1m ³	—	1	
	1系除湿器(初沈)	冷凍式、120L/分	0.4	1	
	1系除湿器(終沈)	冷凍式、120L/分	0.4	1	
	1系No.1初沈引抜弁用電磁弁箱	SUS製、電磁弁8個収納(全8個収納)	8W	1	
	1系No.1初沈スカム切替弁用電磁弁箱	SUS製、電磁弁2個収納	8W	1	
	反応槽設備	1系No.1反応槽バイパスゲート	手動式鋳鉄製外ねじ式、800W×600H	—	1
		1系No.1バイパス水路仕切ゲート	手動式鋳鉄製外ねじ式、800W×600H	—	1
		1系No.1~4反応槽流入調整弁	電動偏心構造弁、350Φ	0.8	4
1系No.1~4嫌気槽攪拌機		水中機械式、8000W×9000L×5500H	3.7	4	
1系No.1-1~4-5無酸素槽攪拌機		水中機械式、8000W×9000L×5500H	3.7	20	
1系No.1-1~1-4好気槽攪拌機		水中機械式、8000W×9000L×5500H	3.7	4	
1系No.1好気槽散気装置		全面曝気式、8000W×9000L×5500H、有効発泡面積比3.57%	—	1	
1系No.2~4好気槽散気装置		メンブレンパネル式、8000W×9000L×5500H	—	3	
1系No.1-1~1-2反応槽仕切ゲート		手動式鋳鉄製外ねじ式、500W×500H	—	2	
初期用循環ポンプ		着脱式水中汚水ポンプ、100Φ×1.8m ³ /分×5m	5.5	1	
1系No.1-1~4-4循環ポンプ		吸込スクリー付汚泥ポンプ、200Φ×3.7(4.0)m ³ /分×5.5m	5.5(7.5)	4+4	
1系No.1~4曝気用空気調整弁		電油操作式蝶形弁、200Φ	0.4	4	
1系No.1-1~3-2床排水ポンプ(反応槽)		着脱式水中汚水ポンプ、65Φ×0.3m ³ /分×13m	2.2	6	
1系床排水ポンプ(送気管ピット)		着脱式水中汚水ポンプ、65Φ×0.3m ³ /分×13m	2.2	1	
No.1水中攪拌機吊上装置		手動式、1ton×4m	—	1	
最終沈殿池設備		1系No.1-1~4-2終沈流入ゲート	手動式鋳鉄製外ねじ式、400W×400H	—	8
		1系No.1-1~4-2終沈汚泥掻寄機	チェーンフライト式、3900W×47000L	0.4	8
		1系No.1-1,1-2終沈スカムスキマ(前段)	手動式パイプスキマ、300Φ	—	2
		1系No.2-1~4-2終沈スカムスキマ(前段)	電動式パイプスキマ、300Φ	0.13	6
	1系No.1-1~4-2終沈スカムスキマ(後段)	電動式パイプスキマ、300Φ	0.13	8	
	1系No.1-1~4-2終沈汚泥引抜弁	空気作動偏心構造弁、200Φ	—	8	
	1系No.1~4返送汚泥ポンプ	吸込スクリー付汚泥ポンプ、250Φ×5.7(5.5)m ³ /分×8(6)m	15(11)	2+1+1	
	1系No.1-1,1-2余剰汚泥ポンプ	吸込スクリー付汚泥ポンプ、100Φ×0.9m ³ /分×15.5m	5.5	2	
	1系No.1-1,1-2終沈スカム移送ポンプ	吸込スクリー付汚泥ポンプ、100Φ×1m ³ /分×19m	7.5	2	
	1系No.1終沈スカム戻り弁	空気作動偏心構造弁、150Φ	—	1	
	1系No.1終沈スカム移送弁	空気作動偏心構造弁、150Φ	—	1	
	1系終沈排水ポンプ	吸込スクリー付汚泥ポンプ、150Φ×3m ³ /分×14m	15.0	1	
	1系No.1終沈引抜弁用電磁弁箱	SUS製、電磁弁8個収納(全8個収納)	8W	1	
	1系No.1終沈スカム切替弁用電磁弁箱	SUS製、電磁弁2個収納	8W	1	
	1系No.1,2-1,2-2床排水ポンプ(終沈)	着脱式水中汚水ポンプ、65Φ×0.3m ³ /分×13m	2.2	3	
	1系No.1床排水ポンプ吊上装置(初沈)	手動式、0.5ton×4m	—	1	
	1系No.1~3床排水ポンプ吊上装置(反応槽)	手動式、0.5ton×2.5m	—	3	
	1系床排水ポンプ吊上装置(送気管ピット)	手動式、0.5ton×4m	—	1	
	1系No.1,2床排水ポンプ吊上装置(終沈)	手動式、0.5ton×4m×1台、0.5ton×2.5m×1台	—	2	
	1系No.1,2終沈汚泥引抜管仕切弁	手動仕切弁、400Φ	—	2	
	薬注設備	1系No.1,2PAC貯留タンク	FRP製円筒タンク、7m ³	—	2
1系No.1~4,9PAC注入ポンプ		ダイヤフラム式、25Φ×0.349(0.406)~0.643(0.777)L/分×0.2MPa	0.4	4+1	
脱臭設備	No.1水処理脱臭ファン	片吸込ターボファン、58m ³ /分×2.8kPa	5.5	1	
	No.2水処理脱臭ファン	片吸込ターボファン、49m ³ /分×2.8kPa	5.5	1	
	No.3水処理脱臭ファン	片吸込ターボファン、90m ³ /分×2.8kPa	7.5	1	

備	No.1水処理脱臭装置	添着活性炭吸着塔、58m ³ /分	—	1	
	No.2水処理脱臭装置	添着活性炭吸着塔、49m ³ /分	—	1	
	No.3水処理脱臭装置	添着活性炭吸着塔、90m ³ /分	—	1	
	No.1活性炭搬出入クレーン(水処理)	手動式ギヤードトオリ付、1ton×5m	—	1	
	No.2活性炭搬出入クレーン(水処理)	手動式ギヤードトオリ付、1ton×5m	—	1	
ブロ ワ 棟 備	ブロ ワ 棟	湿式空気ろ過器(第1ブロワ棟)	回転油膜式湿式空気ろ過器、313m ³ /分	0.2	1
	乾式空気ろ過器(第1ブロワ棟)	自動巻取り型乾式空気ろ過器、313m ³ /分	0.2	1	
	No.1,2ブロワ(第1ブロワ棟)	ルーツ形(水冷式)、200Φ×29m ³ /分×67(64)kPa	75.0	1+1	
	No.1,2ブロワ放風弁(第1ブロワ棟)	電油操作式蝶形弁、65Φ	0.4	2	
	No.3ブロワ(第1ブロワ棟)	歯車増速単段ターボ形(水冷式)、200Φ×51m ³ /分×67kPa	90.0	1	
	No.3ブロワ吐出弁(第1ブロワ棟)	電動外ねじ仕切り弁、200Φ	0.75	1	
	No.3ブロワ放風弁(第1ブロワ棟)	電油操作式蝶形弁、150Φ	0.4	1	
	No.4ブロワ(第1ブロワ棟)	歯車増速単段ターボ形(水冷式)、200Φ×60m ³ /分×67kPa	110.0	1	
	No.4ブロワ吐出弁(第1ブロワ棟)	電動外ねじ仕切り弁、250Φ	0.75	1	
	No.4ブロワ放風弁(第1ブロワ棟)	電油操作式蝶形弁、150Φ	0.4	1	
	No.1,2空気弁(A)	手動式バタフライ弁、700Φ	—	2	
	空気弁(B)	手動式バタフライ弁、600Φ	—	1	
	空気弁(C)	手動式バタフライ弁、450Φ	—	1	
	No.1,2冷却水ポンプ(第1ブロワ棟)	形吸込渦巻ポンプ、65Φ×0.35m ³ /分×16m	2.2	2	
	ブロワ点検用クレーン(第1ブロワ棟)	手動式(チェンブロック式)、3.5ton×12m	—	1	
	No.1,2-1,2-2床排水ポンプ(第1ブロワ棟)	着脱式水中汚水ポンプ、65Φ×0.3m ³ /分×7m	1.5	3	
	No.2-1,2-2床排水ポンプ吊上装置(第1ブロワ棟)	手動式、0.5ton×2.5m	—	2	
	砂ろ過水切替弁(第1ブロワ棟)	電動ボール弁、80Φ	23W	1	
	砂 ろ 過 施 設	砂 ろ 過 設 備	No.1,2砂ろ過設備流入ゲート	手動式鑄鉄製外ねじ式、600W×1200H	—
1系No.1高度処理スクリーン			1000W×2700H×目幅3mm	0.4	1
No.1,2原水槽流入ゲート			手動式鑄鉄製外ねじ式、600W×1200H	—	2
1系原水槽連絡ゲート			手動式鑄鉄製外ねじ式、600W×600H	—	1
1系No1砂ろ過設備バイパスゲート			手動式鑄鉄製外ねじ式、900W×1300H	—	1
1系No2砂ろ過設備バイパスゲート			手動式鑄鉄製外ねじ式、1100W×1000H	—	1
1系No.1,2原水槽流出ゲート			手動式鑄鉄製外ねじ式、900Φ	—	2
1系No.1原水ポンプ			横軸渦巻斜流ポンプ、300Φ×12m ³ /分×10m	30.0	2
1系No.2原水ポンプ			横軸渦巻斜流ポンプ、350Φ×20m ³ /分×10m	55.0	1
1系No.1原水ポンプ吐出弁			電動バタ弁、300Φ	0.2	2
1系No.2原水ポンプ吐出弁			電動バタ弁、400Φ	0.2	1
1系No.2原水ポンプ吸込弁			手動仕切弁、400Φ	—	1
1系No.2原水ポンプ逆止弁			緩閉式逆止弁、400Φ	—	1
1系No.3~4原水ポンプ吸込弁			手動仕切弁、500Φ	—	2
1系No.1,2原水管止水弁			手動バタ弁、700Φ	—	2
1系原水戻り弁			電動バタ弁、250Φ	0.2	1
1系No.1~4調圧水槽可動堰			手動式鑄鉄製外ねじ式、800W×600H	—	4
1系No.1-1砂ろ過池			上向流移床型、10m ²	—	1
1系No.1-2砂ろ過池			上向流移床型、15m ²	—	1
1系No.2~4砂ろ過池			上向流移床型、25m ³	—	3
1系砂ろ過池バイパスゲート			手動式鑄鉄製外ねじ式、1000Φ	—	1
1系No.1~2未消毒水槽流入ゲート			手動式鑄鉄製外ねじ式、800W×800H	—	2
1系No.1~2処理水槽流入ゲート			手動式鑄鉄製外ねじ式、800W×800H	—	2
1系No.1~2洗浄用空気圧縮機			水冷式オイルフリー揺動式、1.7m ³ /分×200kPa	7.5	2
1系No.3洗浄用空気圧縮機			水冷式オイルフリー揺動式、4.0m ³ /分×200kPa	15.0	1
1系No.1~3空気槽(砂ろ過)			立形円筒槽、200L	—	3
1系No.1空洗電動ボール弁箱			SUS製、4個収納	—	1
1系No.2~4空洗電動ボール弁箱			SUS製、2個収納	—	3
1系No.1,2洗浄排水ポンプ			無閉塞汚泥ポンプ、100Φ×1.6m ³ /分×8m	11.0	2
1系No.1,2洗浄排水ポンプ吐出弁			電動仕切弁、100Φ	0.2	2
1系No.3洗浄排水ポンプ			無閉塞汚泥ポンプ、150Φ×3.2m ³ /分×8m	15.0	1
1系No.3洗浄排水ポンプ吐出弁			電動仕切弁、150Φ	0.2	1
1系No.1,2消泡水ポンプ			片吸込渦巻ポンプ、80Φ×0.8m ³ /分×35m	11.0	2

		1系No.3消泡水ポンプ	片吸込渦巻ポンプ、100Φ×1.5m ³ /分×35m	15.0	1
		1系消泡水ポンプ吐出弁	電動バタフライ弁、300Φ	0.4	1
		水処理砂ろ過散水給水ユニット	圧力式自動給水ユニット、65Φ×0.44m ³ /分×35m	5.5	1
		No.1水処理軸封水用給水ユニット	圧力式自動給水ユニット、65Φ×0.48m ³ /分×39m	7.5	1
		東側植樹用給水ユニット	圧力式自動給水ユニット、40Φ×0.20m ³ /分×46m	3.7	1
		No.1,2SP棟送水ポンプ	片吸込渦巻ポンプ、80Φ×0.8m ³ /分×5m	3.7	2
		No.1,2プロワ棟送水ポンプ	片吸込渦巻ポンプ、65Φ×0.4m ³ /分×6m	2.2	2
		No.1,2管理本館送水ポンプ	片吸込渦巻ポンプ、50Φ×0.35m ³ /分×19m	2.2	2
		No.1,2汚泥処理棟送水ポンプ	片吸込渦巻ポンプ、125Φ×2.3m ³ /分×11m	7.5	2
		No.1,2親水用水設備送水ポンプ	片吸込渦巻ポンプ、40Φ×0.15m ³ /分×33m	2.2	2
		生物脱臭送水ポンプ	片吸込渦巻ポンプ、65Φ×0.45m ³ /分×7m	2.2	1
		1系No.1～4床排水ポンプ(砂ろ過)	自給式渦巻ポンプ、65Φ×0.3m ³ /分×14m	2.2	4
		1系No.1,2床排水ポンプ(砂ろ過管廊)	着脱式水中汚水ポンプ、65Φ×0.3m ³ /分×14m	2.2	2
		床排水ポンプ吊上装置(砂ろ過管廊)	手動式、0.5ton×2.5m	—	1
		機器搬入用吊上装置	電動式チェーンブロック駆、1ton×11m	1.7	1
消毒施設	消毒設備	1系No.1次亜塩貯槽	立形定置式、5.1m ³	—	1
		1系No.1,2放流水次亜塩注入ポンプ	15Φ×0.02～0.308L/分×0.5MPa	0.2	2
		1系No.3放流水次亜塩注入ポンプ	15Φ×0.04～0.53L/分×0.5MPa	0.2	1
		1系No.4放流水次亜塩注入ポンプ	25Φ×0.54～1.01L/分×0.49MPa	0.2	1
		1系No.1,2機械用水次亜塩注入ポンプ	0.27L/分×0.34MPa	24W	2
		No.1,2塩素混和池流入ゲート	手動式、1000W×1000H	—	2
		No.1塩素混和池バイパスゲート	手動式、1400W×1400H	—	1
濃縮汚泥施設	濃縮汚泥設備	初沈汚泥用スクリーン	回転スクリーン式、2.4m ³ /分×4mm幅	0.75×2	1
		初沈スカムスクリーン	回転スクリーン式、2.4m ³ /分×3mm幅	0.75×2	1
		終沈スカムスクリーン	回転スクリーン式、2.4m ³ /分×3mm幅	0.4×2	1
		し渣搬出コンベヤ	無軸スクリュウコンベヤ、1.1ton/時以上×搬送距離9850mm	0.75	1
		し渣脱水機	スクリュウ式、1.1m ³ /時	5.5+0.4	1
		し渣ホッパ	電動式鋼板製、4m ³	0.75×2	1
		No.1濃縮汚泥掻寄機	中央駆動懸垂型、7.5mΦ×4m	0.75	1
		No.1濃縮汚泥引抜弁	電動偏心構造弁、150Φ	0.4	1
		No.1,2濃縮汚泥引抜ポンプ	一軸ネジ式、125Φ×0.9m ³ /分×0.12MPa	7.5	2
		No.1,2床排水ポンプ(汚泥スクリーン)	着脱式水中汚水ポンプ、65Φ×0.3m ³ /分×16m	3.7	2
		床排水ポンプ吊上装置(汚泥スクリーン)	手動式チェーンブロック、0.5ton×4.4m	—	1
		初沈スカム切替弁(重力槽)	手動仕切弁、200Φ	—	1
		初沈スカム切替弁(貯留槽)	手動仕切弁、200Φ	—	1
		終沈スカム切替弁(重力槽)	手動仕切弁、200Φ	—	1
		終沈スカム切替弁(貯留槽)	手動仕切弁、200Φ	—	1
		送泥切替弁(重力槽)	手動仕切弁、200Φ	—	1
		送泥切替弁(貯留槽)	手動仕切弁、200Φ	—	1
		送泥切替弁(連絡弁)	手動仕切弁、200Φ	—	1
		維持管理用吊上装置	電動式チェーンブロック、1ton×13.3m	1.7	1
		脱臭設備	脱臭設備	汚泥スクリーン棟生物脱臭装置	充填塔式生物脱臭装置、46m ³ /分
汚泥スクリーン棟脱臭ファン	片吸込ターボファン、46m ³ /分×3.63kPa			7.5	1
汚泥スクリーン棟吸着脱臭装置	添着活性炭吸着塔、46m ³ /分			—	1
し渣搬出室用脱臭ファン	片吸込ターボファン、59m ³ /分×2.05kPa			3.7	1
し渣搬出室用脱臭装置	添着活性炭吸着塔、59m ³ /分			—	1
し渣搬出室用脱臭ダンパ	電動ダンパ、□400			0.04	1
活性炭搬出入クレーン(重力濃縮)	手動式チェーンブロック、1ton×6.1m			—	1
汚泥処理棟	汚泥脱水設備	No.1～4余剰汚泥切替弁	空気作動偏心構造弁(複作動形)、200Φ	—	4
		No.1～4重力濃縮汚泥切替弁	空気作動偏心構造弁(複作動形)、150Φ	—	4
		No.1～2濃縮汚泥貯留槽攪拌機	立型パドル式、羽根径約2000mmΦ	7.5	2
		No.3～4濃縮汚泥貯留槽攪拌機	立型パドル式、羽根径約2250mmΦ	7.5	2
		No.1～4汚泥供給ポンプ	一軸ネジ式、150Φ×0.23～0.7m ³ /分×11m	11.0	4
		No.1,2薬品定量フィーダ	容積式、890～2670CC/分、ホッパ容量400L	0.4	2
		No.1,2薬品溶解タンク	鋼板製円筒形、8m ³	3.7	2
		No.1～4薬品供給ポンプ	一軸ネジ式、50Φ×14.6～43.9L/分×17m	2.2	4

	No.1,2無機凝集剤貯槽	FRP製円筒タンク、9m ³	—	2
	No.1～4無機凝集剤注入ポンプ	ダイヤフラム式、25Φ×0.31(0.39)～0.93(1.16)L/分×0.4MPa	0.2	3+1
	No.1～3汚泥脱水機	ベルトプレス、ろ布幅1.5m×180kg-DS/m・時	4.45	3
	No.1～3造粒調質装置	造粒調質ユニット、0.27tds/時	11.2	3
	No.1ケーキ搬送コンベヤ	トラフ形ベルトコンベヤ、W600mm×L16800mm、20m/min	1.5	1
	No.2ケーキ搬送コンベヤ	無軸スクリューコンベヤ、Φ280mm×L18000mm、5m ³ /n	3.7	1
	No.3ケーキ搬送コンベヤ	無軸スクリューコンベヤ、Φ280mm×L5400mm、5m ³ /n	1.5	1
	No.4ケーキ搬送コンベヤ	無軸スクリューコンベヤ、Φ280mm×L5600mm、5m ³ /n	1.5	1
	No.1,2ケーキ貯留ホッパ	電動式鋼板製、10m ³	1.5×2	2
	No.1,2空気圧縮機(汚泥処理)	パッケージ式、1200L/分×0.83MPa	11.0	2
	空気槽(汚泥処理)	立形円筒槽、1.15m ³	—	1
	除湿器(汚泥処理)	冷凍式、1.34m ³ /分	0.25	1
	No.1,2砂ろ過水切替弁(汚泥処理)	空気作動ボール弁(複作動形)、200Φ	—	2
	No.1～4ろ布洗浄水ポンプ	多段渦巻ポンプ、50Φ×0.3m ³ /分×65m	7.5	4
	汚泥処理棟給水ユニット	50Φ×0.6m ³ /分×63m	7.5×2	1
	No.1～2分離液移送ポンプ	吸込スクリュー付汚泥ポンプ、100Φ×1.0m ³ /分×9m	5.5	2
	No.3～4分離液移送ポンプ	吸込スクリュー付汚泥ポンプ、150Φ×2.0m ³ /分×9m	11.0	2
	No.1～2分離液貯留槽攪拌機	立型パドル式、羽根径約2000mmΦ	7.5	2
	No.3分離液貯留槽攪拌機	立型パドル式、羽根径約2250mmΦ	7.5	1
	No.1-1～2-2床排水ポンプ(汚泥処理)	着脱式水中汚水ポンプ、65Φ×0.3m ³ /分×16m	3.7	4
	天井クレーン	サスペンション形手動チェーンブロック、2.5ton×スパン10.8m×揚程8.0m	—	1
	薬品コンテナ吊上装置	電動式チェーンブロック、2ton×12m	1.7+0.4	1
	No.1,2床排水ポンプ吊上装置(汚泥処理)	手動式チェーンブロック、0.5ton×3.5m	—	2
	余剰汚泥切替弁用電磁弁箱	SUS製、4個(全4個収納)	—	1
	濃縮汚泥切替弁用電磁弁箱	SUS製、4個(全4個収納)	—	1
	砂ろ過水切替弁用電磁弁箱	SUS製、2個(全2個収納)	—	1
	薬品引抜弁用電磁弁箱	SUS製、2個(全2個収納)	—	1
	無機凝集剤引抜弁用電磁弁箱	SUS製、2個(全2個収納)	—	1
	消臭剤噴霧装置	定量電磁ポンプ(タンク付)、400mL/分×0.2MPa	22W+8W×2	1
	No.1維持管理用吊上装置	手動式ギヤードトロー、1.0ton×7.7m	—	1
	No.2維持管理用吊上装置	電動式チェーンブロック、1.0ton×11.5m	1.7	1
脱臭設備	汚泥処理棟生物脱臭装置	充填塔式生物脱臭装置、56m ³ /分	約10.0	1
	汚泥処理棟脱臭ファン	片吸込ターボファン、56m ³ /分×3.53kPa	7.5	1
	汚泥処理棟吸着脱臭装置	添着活性炭吸着塔、56m ³ /分	—	1
	ケーキ搬出室用脱臭ファン	片吸込ターボファン、63m ³ /分×1.96kPa	5.5	1
	ケーキ搬出室用脱臭装置	添着活性炭吸着塔、63m ³ /分	—	1
	ケーキ搬出室用脱臭切替ダンパ	電動式ダンパ、□450	0.04	1
	活性炭搬出入クレーン(汚泥処理)	手動式チェーンブロック、1.0ton×5.9m	—	1
	環境ゾーン	送水設備		
カエル循環ポンプ		水中ポンプ、50Φ×0.0935m ³ /分×40.3m	3.7	1
トンボ送水ポンプ		水中ポンプ、50Φ×0.0935m ³ /分×40.3m	3.7	1
No.1,2トンボ送水ポンプ(海水)		水中ポンプ、50Φ×0.0438m ³ /分×15m	0.75	2
No.1,2トンボ排水ポンプ(海水)		水中ポンプ、50Φ×0.280m ³ /分×7m	1.5	2
No.1,2トンボゾーン前池⇒トンボゾーン送水ポンプ		水中ポンプ、50Φ×0.170m ³ /分×4.8m	0.4	2
メダカゾーン⇒トンボゾーン前池送水ポンプ	水中ポンプ、50Φ×0.220m ³ /分×7.5m	0.75	1	

(5) 宮川浄化センター処理フロー



(エ) 環境保全に係る取り組み

a 水質自主管理目標値の設定

放流水質についての水質自主管理目標値は、法令（下水道法、水質汚濁防止法）による基準よりさらに低い値を設定しており、特に全窒素及び全りん（りん）の抑制は、周辺海域の富栄養化防止に係る重要因子であることから、厳しい値を目標値としている。

法令等に基づく基準値及び自主管理目標値

項目	基準値	自主管理目標値
BOD (mg/L)	15 以下	10 以下
COD (mg/L)	—	15 以下
SS (mg/L)	40 以下	5 以下
全窒素 (mg/L)	10 以下	9.5 以下
全りん (mg/L)	1.0 以下	0.5 以下
pH (—)	5.8～8.6	5.8～8.6

備考：基準値は下水道法の水質基準。

b 放流水の適切な消毒

処理水の放流に伴う大腸菌などによる汚染を避ける必要性から次亜塩素酸ナトリウムで消毒を行っているが、残留塩素を極力低減化し、放流先水域の水生生物等に影響を及ぼさないようにしている。

次亜塩素酸ナトリウムの注入率は、有効塩素として0.1mg/Lとなるように注入した。

(オ) 処理水の利用

管理本館内の水洗トイレの洗浄水及び場内植栽への撒き水として利用を図るとともに、自然環境保全を目標としたカエルゾーンやトンボゾーンでも活用している。

イ 月別の水処理状況

4月

降水量は 128.0mm、流入水量は 11,149m³/日であり、3月と比べて 712 m³/日増加した。

りん除去を目的に No.2 の MLSS を 2,000mg/L 程度まで下げた。4月下旬に、全窒素が上昇傾向となったため、余剰汚泥の引抜量を減らし MLSS を 2,200mg/L 程度で維持するとともに、生物反応槽における溶存酸素量の管理値を増加させ、脱窒を促進させることで対応した。

前半不安定であった全りんは、中旬には安定した。全りんが高い時は、PAC にて対応した。全窒素及び全りん濃度の日間平均値が、管理目標値を超えることはなかった。

5月

降水量は 69.0mm、流入水量は 11,379m³/日であり、4月と比べて 230 m³/日増加した。

全窒素は月上旬に不安定となり、反対に全りんは下旬に不安定となった。全窒素が上昇したため、循環水量を変更して対応した。また、りん除去が悪化した原因について、MLSS の動向を加味したところ流入負荷が低いと想定したため、最初沈澱池流入稼動堰の開度を変更した。

全窒素及び全りん濃度の日間平均値が、管理目標値を超えることはなかった。

6月

降水量は 217.5mm、流入水量は 11,703m³/日であり、5月と比べて 306m³/日増加した。

MLSS の目標値を 2,200mg/L とし、余剰汚泥量を調節した。

全窒素は5月よりも良好に処理できたが、全りんは全体的に高く推移し、5月より悪化した。このため、最初沈澱池流入稼動堰の開度を調節し、りん処理が悪化していた No.1 反応槽に負荷がかかるようにすると同時に、No.1 反応槽のみ一週間程度 PAC を連続で添加した。その間、放流水の全りん濃度の変動が小さくなっているため、効果はあったと考えられる。

全窒素及び全りん濃度の日間平均値が、管理目標値を超えることはなかった。

7月

降水量は 22.5mm、流入水量は 12,950m³/日であり、6月と比べて 1,247 m³/日増加した。

7月中旬からりん処理が安定してきていたため、MLSS を調節する目的で最初沈澱池流入稼動堰の開度を調節した。

COD が 8.0mg/L 前後と若干高めであったが、全窒素及び全りんともに安定して処理することができた。

全窒素及び全りん濃度の日間平均値が、管理目標値を超えることはなかった。

8月

降水量は 72.0mm、流入水量は 13,351m³/日であり、7月と比べて 401m³/日増加した。

流入量が増加してきており、時間的に揚水量を多くしないと流入渠の底引きが困難になってきたため、最初沈澱池 3-2 の使用を開始した。最初沈澱池流入稼動堰は全開で運用した。

8月中旬からりん処理が再び悪化してきた。全窒素濃度の日間平均値が管理目標値を超えることはなかったが、全りん濃度については8月19日に全りん濃度が0.8mg/L、8月26日に0.6mg/Lと管理目標値を超過した。処理が悪化している生物反応槽を水質分析で特定しPACを添加、無酸素槽の一部を曝気し好気槽に一時的に変更、余剰汚泥の引抜量を増加させるなどして対応した。

9月

降水量は280.5mm、流入水量は15,119m³/日であり、8月と比べて4,515m³/日増加した。9月15日及び16日に台風18号接近に伴い219mmの総雨量があり、その影響で流入量が約10,000m³増加した。また、増加した流入水量に対応するため、最初沈澱池に一時的に空池貯留した。

台風18号の影響を受けたが、全窒素濃度の日間平均値が管理目標値を超えることはなかった。全りん濃度については、台風18号による大雨の影響を受け、大量の流入水に対処するために揚水量を増加させざるを得なくなった。溶存酸素を豊富に含有する汚水が生物反応槽(嫌気槽)に流入した結果、りん処理が不安定になった。凝集剤を添加する等対応したが、9月17日に0.6mg/Lと管理目標値を超過した。

10月

降水量は496.0mm、流入水量は16,235m³/日であり、9月と比べて1,116m³/日増加した。台風の影響で流入水量が増加した際は、最初沈澱池で一時的に空池貯留及び管内貯留で対応した。

台風26号接近に伴い、大雨の影響で揚水量を増やしたが、嫌気槽ORP等を監視し、事前に凝集剤を添加する等対応した結果、全窒素及び全りん濃度の日間平均値が管理目標値を超えることはなかった。

りん処理が安定してきたため、一時的に曝気し好気槽として使用していた無酸素槽の一部を、通常の無酸素槽に戻した。

11月

降水量は45.0mm、流入水量は14,914m³/日であり、10月と比べて1,321m³/日減少した。

窒素処理が悪化したため、全ての生物反応槽において循環ポンプ2台で並列運転し、循環量を450m³/hとした。これにより、窒素処理は改善した。

りん処理については、周期的に悪化する傾向を掴んでいたため、事前にPACを添加することにより変動を小さく抑えることができた。

全窒素及び全りん濃度の日間平均値が、管理目標値を超えることはなかった。

12月

降水量は27.0mm、流入水量は14,800m³/日であり、11月と比べて114m³/日増加した。

毎年、年末年始は流入する全窒素濃度が上昇し、それに伴い窒素処理が悪化するため、高MLSSを維持した。年末年始に限り、高い流入全窒素濃度を稀釈する目的で、消泡水にて生物反応槽

への流入負荷を稀釈して対応した。

全窒素及び全りん濃度の日間平均値が、管理目標値を超えることはなかった。

1月

降水量は 10.5mm、流入水量は 14,558m³/日であり、12月と比べて 242m³/日減少した。

年末年始に脱水量が減少したため、MLSS は上昇した。低い水温に対応するため、高い MLSS 維持を目的に、MLSS の目標を 2,600mg/L として脱水量を調節することとしたが、No.3 反応槽で MLSS の低下が顕著となり、汚泥が解体気味であった。

全窒素濃度について、例年年始に窒素処理が不安定となるが、安定した処理を行うことができた。また、りん処理は年始から不安定であったため、溶存酸素濃度を調節し、処理が悪化していた No.3 反応槽のみ循環ポンプを 1 台で運転する等して対応した。1 月後半は、全りん濃度の変動は小さくなったが、No.3 反応槽では処理不良が続いた。

全窒素及び全りん濃度の日間平均値が、管理目標値を超えることはなかった。

2月

降水量は 12.5mm、流入水量は 14,648m³/日であり、1月と比べて 90m³/日増加した。

1 月から引き続き No.3 反応槽ではりんの処理不良が続いていた。りん処理を促進するため、No.3 反応槽にて循環ポンプを 2 台から 1 台にして運転していたが、りん処理改善にあまり効果がなかったため、2 台運転に戻した。SV が極端に低いこと、汚泥が解体気味で最終沈澱池の透視度及び SS が悪化していたため、No.2 反応槽及び No.3 反応槽の活性汚泥を混合することとした。結果、2 月後半にかけてりん処理は安定していった。

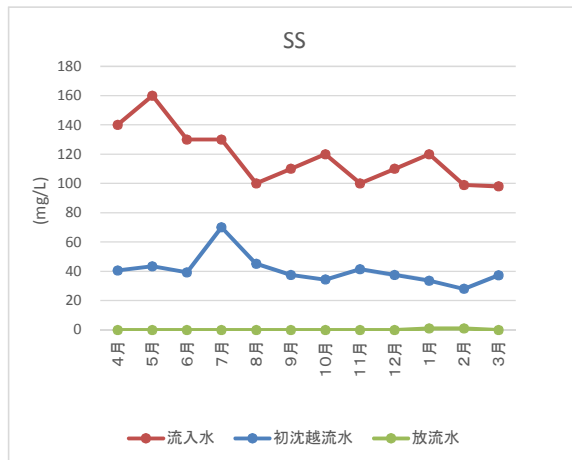
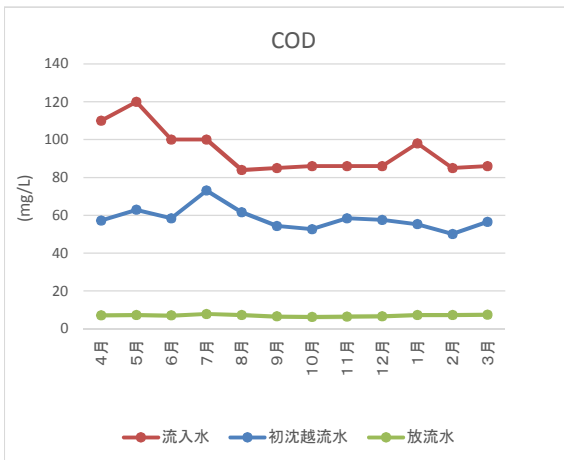
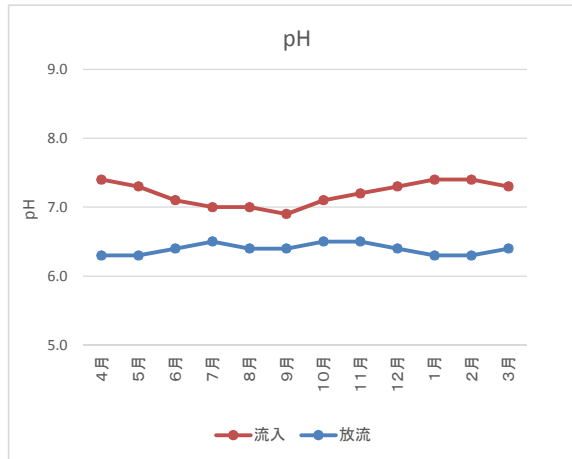
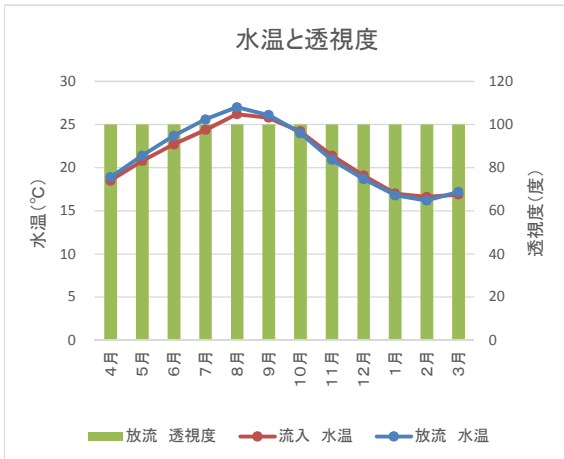
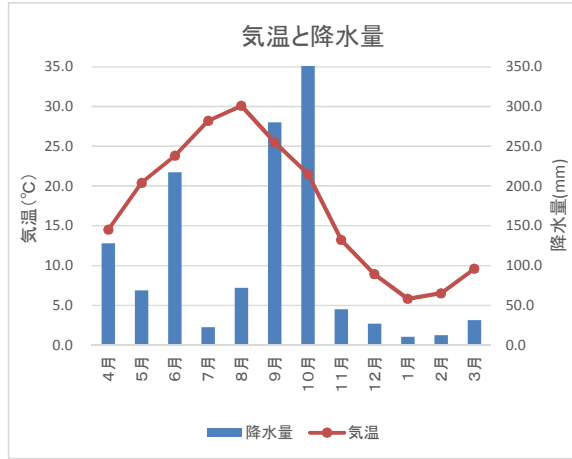
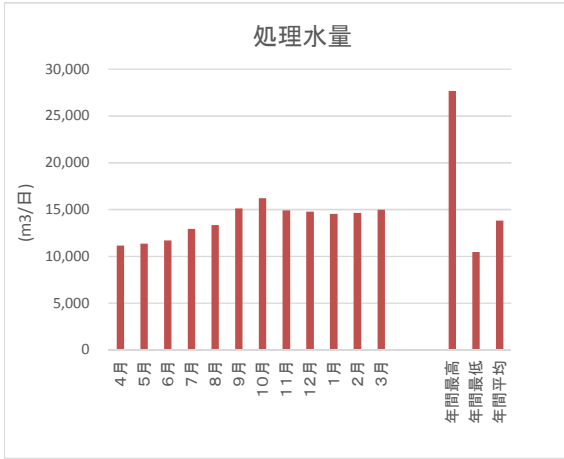
全窒素及び全りん濃度の日間平均値が、管理目標値を超えることはなかった。

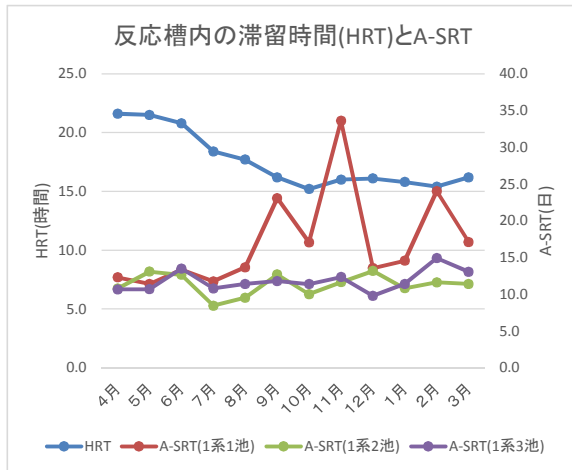
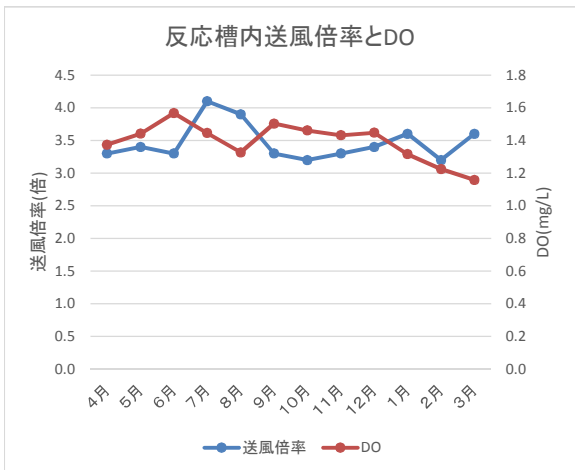
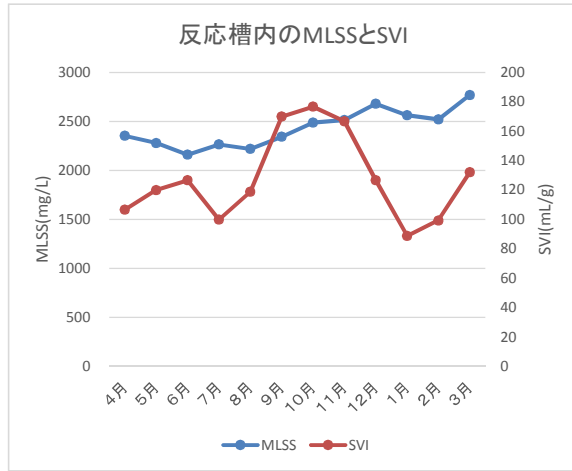
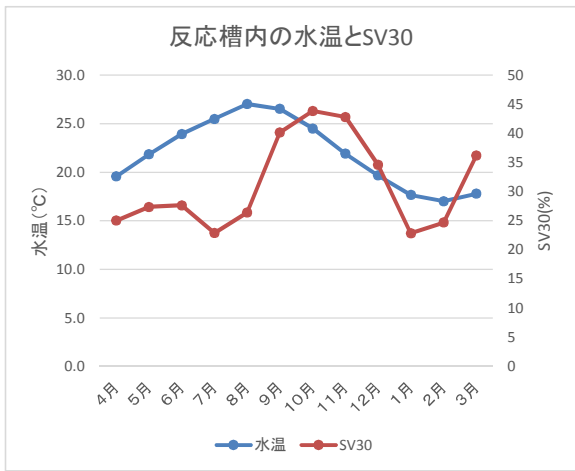
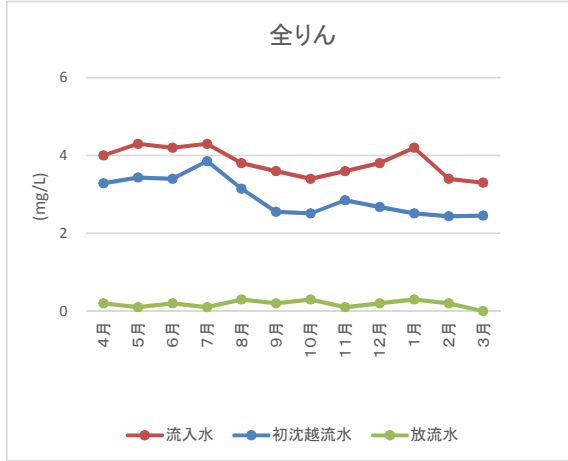
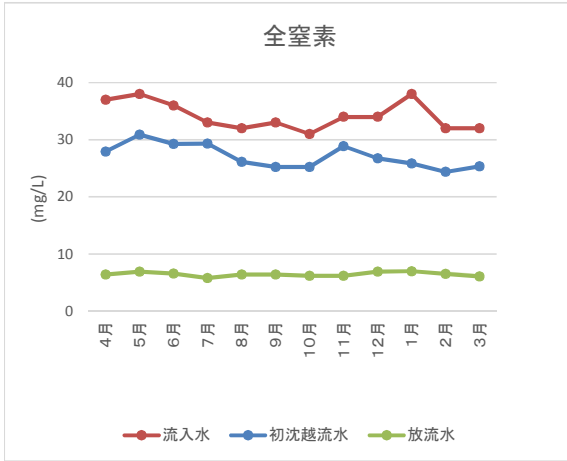
3月

降水量は 31.5mm、流入水量は 14,988m³/日であり、2月と比べて 350 m³/日増加した。

水温が低い状態が続いていたので、引き続き高い MLSS を維持するため、余剰汚泥の引抜量の調節を続けた。りん処理は、2 月後半以降に引き続き安定していた。

全窒素及び全りん濃度の日間平均値が、管理目標値を超えることはなかった。





備考

1. 各月のデータは、その月平均値。
2. 年間最高値は、年間の総データの最高値。
3. 年間最低値は、年間の総データの最低値。
4. 年間平均値は、月平均の平均値。
5. ただし、降水量の各月のデータは、日降水量の累積値。

(9)汚泥脱水処理

項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	日平均
汚泥脱水処理	脱水処理量 [m ³]	5,894.0	6,195.0	5,226.0	6,307.0	7,219.0	6,441.0	7,351.0	6,823.0	8,477.0	8,380.0	6,604.0	7,525.0	82,442.0	225.9
	濃縮汚泥濃度日平均 [%]	1.36	1.28	1.18	1.07	1.06	1.25	1.29	1.47	1.28	1.33	1.43	1.46	—	年平均 1.29
	脱水機運転時間 [h:m]	480:13	494:08	412:29	483:24	516:51	451:31	532:08	517:11	597:54	587:29	505:23	581:41	6160:22	16:53
	ケーキ発生量 [t]	282.20	280.50	228.50	294.00	301.10	278.80	340.00	358.60	412.80	423.50	367.70	401.90	3,969.60	10.88
しき	ケーキ含水率日平均 [%]	74.0	73.9	73.8	75.0	73.5	72.3	73.3	73.2	74.1	74.3	74.7	74.5	—	年平均 73.9
	しき発生量 [t]	2.56	2.16	1.82	1.41	1.60	1.61	2.20	2.25	4.41	4.08	2.09	2.80	28.99	0.08
汚泥処分	汚泥処分合計量 [t]	280.72	287.17	243.91	290.81	317.84	273.44	350.68	368.54	426.99	433.67	369.19	422.42	4,065.38	11.14
	セメント原料化 [t]	280.72	287.17	243.91	290.81	317.84	273.44	350.68	368.54	426.99	433.67	369.19	422.42	4,065.38	11.14
しき処分	しき処分合計量 [t]	0.00	0.79	0.00	0.52	0.49	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.03	0.00	2.83	0.01
	焼却処分 [t]	0.00	0.79	0.00	0.52	0.49	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.03	0.00	2.83	0.01

(10) 施設点検業務の概要

施設点検整備概要		
番号	工事名称	整備内容
1	防災設備点検業務	消防設備点検、建築基準法、同施工令の規定に基づく建築設備の定期点検
2	電気設備点検業務	三重県流域下水道事業保安規定第11条の規定により、電気設備点検を実施
3	計装・監視制御設備点検業務	設備点検保守要綱に基づく計装設備、監視制御設備の点検を実施
4	多目的広場遊具保守点検業務委託	多目的広場遊具・複合遊具定期点検業務委託
5	No.1、2返送汚泥ポンプ分解整備工事	No.1、2返送汚泥ポンプ分解整備
6	汚泥処理設備(No.1,2濃縮汚泥貯留槽攪拌機)修繕工事	No.1,2濃縮汚泥貯留槽攪拌機分解整備、架台補修、No.1,2濃縮汚泥貯留槽内配管補修・塗装、しよ脱水機分解整備
7	No.1ポンプ井攪拌機分解整備工事	No.1ポンプ井攪拌機
8	No.1濃縮汚泥掻き機減速機消耗品交換	No.1濃縮汚泥掻き機減速機消耗品交換

設備故障状況及び処置概要		
年月	名称及びその状況	処置方法
25 4	SP棟 No.2スクリーンかす搬出機 グリス注入管破損	グリス注入部に直接グリスニップルを接続
4	多目的広場 女性用便所ドア損傷	経過観察
5	汚泥処理棟 給水タンク圧カススイッチより水漏れ	部品交換
5	SP棟 ポンプ室用軸封水ユニット 誤動作	部品交換
5	汚泥処理棟 汚泥供給ポンプ フローススイッチの塩ビナット破損	部品交換
5	砂ろ過施設 水処理砂ろ過給水ユニット電磁弁動作不良	部品交換
5	管理棟玄関B及び分析用ガスボンベ室より雨漏り	コーキング打ち作業
5	汚泥処理棟 男子トイレ小便器洗浄水断水	部品交換
5	理化学試験室1ドラフトチャンバー給水栓が止まらない	部品交換
6	終沈スクリーン バネケースのバネ摩耗	部品交換
6	砂ろ過施設 No.1親水用水設備送水ポンプより異音	部品交換
6	No.1-1余剰汚泥引抜ポンプメカニカルシールより水漏れ	部品交換
6	地下タンク危険物標識破損	部品交換
7	汚泥スクリーン横しきり重量値異常	部品交換
8	発電機棟、砂ろ過棟屋外に接するドアさび	塗装作業
8	脱水機ろ布洗浄水ストレーナの左右切替が固く操作できないこと	部品交換
8	No.4ブロフ 配管よりオイル漏れ	瑕疵対応
9	砂ろ過棟1F電気室 エアコン故障(ACP-1-1, ACP-1-2)	部品交換
9	脱水機ろ布洗浄水ストレーナの左右切替ができないこと	部品交換
9	初沈・終沈空気槽のエアトラップよりエア漏れ	部品交換
9	風力発電機ブレード破損	部品交換
9	砂ろ過棟地下1階消泡水配管ピンホール発生	カップリング工法にて止水
9	砂ろ過棟他誘導灯バッテリー切れ	部品交換
10	SP棟2階排煙窓が閉まらない	部品交換
10	No.1-1初沈スクリーンスキマ過トルク警報発生	調整作業にて解決
10	水処理電気室(1) エアコン故障(ACP-1-1, ACP-1-2)	部品交換
10	負荷演算器の異常	部品交換
10	No.2ブロフ冷却水断警報発令の件	清掃作業実施
10	No.1PAC貯留タンク液位計動作不良	清掃作業実施
10	No.1薬品供給ポンプ下部よりオイル漏れ	経過観察(修繕直後であり、2度目の漏れなし)
10	SP棟スクリーン室除湿機 異常警報発生	瑕疵対応
10	管理本館2階事務室蛍光灯より異音	部品交換
11	管理本館2階事務室丸窓取っ手破損	部品交換
11	脱水機室 生物脱臭装置への脱臭ダクトフランジ部より液漏れ	部品交換
11	初沈汚泥スクリーン バネケースのバネ摩耗	部品交換
11	塩素混和池放流水サンプリングポンプ 流量不足	部品交換
11	No.1PAC貯留タンクストレーナの網破損	部品交換
12	放流水残留塩素計測定値異常	部品交換
12	トンボゾーン水中ポンプ故障	交換
12	管理本館 空調設備用クッションタンク ボールタップの動作不良	部品交換
26 1	水処理施設 終沈用除湿機オートドレンのプラグ破損	部品交換
2	No.2 ヒートポンプチラー異常(温度センサー)	部品交換
2	管理本館排煙窓が閉まらない	メーカーにて修繕作業
2	第1ブロフ棟、第1砂ろ過棟、No.1汚泥処理棟き電盤地絡発生(誤作動)	部品交換
2	場内周辺通路縁石のおそれ	コンクリート打設作業
2	多目的広場禁煙看板破損	交換
2	屋外外灯未点灯	部品交換
3	No.2ケーキ貯留ホッパ重量値異常	部品交換
3	管理本館2階電灯盤端子台破損	部品交換
3	自動採水器冷蔵庫、真空ポンプ故障	部品交換
3	反応槽横管廊内軸封水管ねじ部水漏れ	カップリング工法にて止水

(11)水質試験業務

ア. 流入、放流水質試験

項目 月	気温	水温		透視度		pH		SS		BOD		COD		溶解性TOC	
	°C	°C		度		-		mg/L		mg/L		mg/L		mg/L	
単位		流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流
4月	14.5	18.5	18.9	4	100	7.4	6.3	140	<1	120	0.8	110	7.2	40	4.4
5月	20.4	20.8	21.4	3	100	7.3	6.3	160	<1	140	1.0	120	7.3	36	4.4
6月	23.8	22.7	23.7	4	100	7.1	6.4	130	<1	100	1.1	100	7.1	28	3.8
7月	28.2	24.4	25.6	4	100	7.0	6.5	130	<1	130	1.2	100	7.9	34	4.2
8月	30.1	26.2	27.0	4	100	7.0	6.4	100	<1	97	1.1	84	7.4	36	4.4
9月	25.5	25.8	26.1	5	100	6.9	6.4	110	<1	90	1.4	85	6.6	30	3.2
10月	21.5	24.2	24.0	5	100	7.1	6.5	120	<1	100	1.2	86	6.3	29	2.7
11月	13.2	21.4	20.9	4	100	7.2	6.5	100	<1	120	1.0	86	6.5	32	3.4
12月	8.9	19.1	18.7	4	100	7.3	6.4	110	<1	120	1.2	86	6.7	30	3.3
1月	5.8	17.0	16.8	4	100	7.4	6.3	120	1	100	0.9	98	7.4	34	4.0
2月	6.5	16.6	16.2	4	100	7.4	6.3	99	1	110	1.0	85	7.4	36	4.6
3月	9.6	16.9	17.2	4	100	7.3	6.4	98	<1	110	1.1	86	7.6	40	4.3
最高	33.3	27.0	28.0	7	100	7.8	7.5	320	3	200	2.0	200	8.8	44	5.0
最低	0.1	15.6	14.7	2	100	6.5	6.0	30	<1	70	0.5	54	5.1	26	2.6
平均	17.3	21.1	21.4	4	100	7.2	6.4	120	<1	110	1.1	94	7.1	34	3.9
測定回数	244	244	243	244	244	244	244	244	244	50	50	244	244	24	24
放流基準値			-		-		5.8~8.6		40		20		-		-

項目 月	電気伝導率		大腸菌群数		遊離 残留塩素	全蒸発残留物		強熱減量		塩化物イオン		よう素消費量		全窒素	
	mS/m		個/cm ³		mg/L	mg/L		mg/L		mg/L		mg/L		mg/L	
単位	流入	放流	流入	放流	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流
4月	-	-	62,000	120	0.02	440	220	260	52	54	50	20	-	37	6.4
5月	-	-	99,000	120	0.02	490	220	310	60	52	54	19	-	38	6.9
6月	-	-	140,000	87	0.02	400	250	220	63	53	55	18	-	36	6.6
7月	-	-	110,000	140	0.02	580	320	360	140	60	57	18	-	33	5.8
8月	-	-	140,000	210	0.02	430	260	210	58	60	63	18	-	32	6.4
9月	-	-	310,000	66	0.02	410	230	240	67	50	53	18	-	33	6.4
10月	-	-	100,000	100	0.02	390	230	220	66	54	54	19	-	31	6.2
11月	-	-	77,000	52	0.02	380	220	200	51	52	55	18	-	34	6.2
12月	-	-	52,000	100	0.02	440	230	260	58	56	59	18	-	34	6.9
1月	-	-	60,000	16	0.02	430	220	240	38	54	54	18	-	38	7.0
2月	-	-	88,000	44	0.02	390	230	210	61	49	53	16	-	32	6.5
3月	-	-	66,000	83	0.01	400	200	240	56	45	52	13	-	32	6.1
最高	-	-	660,000	800	0.04	740	470	540	290	79	78	28	-	57	8.6
最低	-	-	17,000	5	<0.01	290	180	140	32	39	42	6	-	18	4.6
平均	-	-	110,000	95	0.01	430	240	250	64	53	55	18	-	34	6.5
測定回数	0	0	48	102	244	51	51	51	51	52	52	51	0	105	109
放流基準値		-		3000	-		-		-		-		-		10

項目 月	NH ₄ ⁺ -N		NO ₂ ⁻ -N		NO ₃ ⁻ -N		全りん		PO ₄ ³⁻ -P		色度		濁度		陰イオン 界面活性剤	
	mgN/L		mgN/L		mgN/L		mg/L		mgP/L		度		度		mg/L	
単位	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流
4月	24	<0.1	<0.1	<0.1	0.2	5.2	4.0	0.2	1.9	<0.1	-	-	-	-	4.8	<0.1
5月	22	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	6.3	4.3	0.1	1.8	<0.1	-	-	-	-	4.6	<0.1
6月	22	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	6.0	4.2	0.2	1.8	0.1	-	-	-	-	3.3	<0.1
7月	22	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	4.9	4.3	0.1	1.9	<0.1	-	-	-	-	4.8	<0.1
8月	23	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	5.5	3.8	0.3	1.9	0.2	-	-	-	-	4.5	<0.1
9月	21	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	5.6	3.6	0.2	1.6	0.2	-	-	-	-	5.7	<0.1
10月	21	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	5.6	3.4	0.3	1.4	0.2	-	-	-	-	4.0	<0.1
11月	24	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	5.3	3.6	0.1	1.6	<0.1	-	-	-	-	3.8	<0.1
12月	23	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	5.6	3.8	0.2	1.6	0.2	-	-	-	-	4.0	<0.1
1月	27	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	5.9	4.2	0.3	2.0	0.2	-	-	-	-	5.5	<0.1
2月	25	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	5.5	3.4	0.2	1.6	0.1	-	-	-	-	5.0	<0.1
3月	24	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	5.4	3.3	<0.1	1.6	<0.1	-	-	-	-	4.2	<0.1
最高	33	0.5	0.2	0.1	1.6	6.8	6.3	0.8	3.3	0.7	-	-	-	-	6.4	<0.1
最低	15	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	4.1	2.4	<0.1	0.8	<0.1	-	-	-	-	3.2	<0.1
平均	23	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	5.6	3.8	0.2	1.7	0.1	-	-	-	-	4.5	<0.1
測定回数	103	104	103	104	103	104	106	110	103	104	0	0	0	0	24	24
放流基準値		-		-		-		1		-		-		-		-

項目 月	n-ヘキサン 抽出物質		フェノール類		銅		垂鉛		溶解性鉄		溶解性マンガン		全クロム		カドミウム	
	mg/L		mg/L		mg/L		mg/L		mg/L		mg/L		mg/L		mg/L	
単位	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流
4月	32	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
5月	34	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
6月	34	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
7月	32	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	0.2	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
8月	30	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
9月	24	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
10月	22	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
11月	36	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
12月	22	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
1月	27	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
2月	25	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
3月	27	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
最高	49	<0.5	<0.1	<0.1	0.1	<0.1	0.2	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
最低	19	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
平均	29	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
測定回数	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
放流基準値		鉱物油 5 動植物油 30		1		1		2		10		10		2		0.1

項目 月	1,1,2-トリクロロエタン		1,3-ジクロロプロペン		チウラム		シマジン		チオベンカルブ		ベンゼン		セレン		弗素	
	mg/L		mg/L		mg/L		mg/L		mg/L		mg/L		mg/L		mg/L	
単位	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流
4月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
5月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
6月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
7月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
8月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
9月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
10月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
11月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
12月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
1月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
2月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
3月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
最高	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
最低	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
平均	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
測定回数	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
放流基準値		0.06		0.02		0.06		0.03		0.2		0.1		0.1		8

項目 月	ほう素		アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物および硝酸化合物の合計		1,4-ジオキサン	
	mg/L		mg/L		mg/L	
単位	流入	放流	流入	放流	流入	放流
4月	<1	<1	9.7	5.0	<0.05	<0.05
5月	<1	<1	9.4	6.2	<0.05	<0.05
6月	<1	<1	9.6	5.6	<0.05	<0.05
7月	<1	<1	8.6	4.6	<0.05	<0.05
8月	<1	<1	9.6	5.5	<0.05	<0.05
9月	<1	<1	9.2	5.6	<0.05	<0.05
10月	<1	<1	8.0	5.6	<0.05	<0.05
11月	<1	<1	9.4	5.8	<0.05	<0.05
12月	<1	<1	9.9	5.6	<0.05	<0.05
1月	<1	<1	10	6.0	<0.05	<0.05
2月	<1	<1	10	5.6	<0.05	<0.05
3月	<1	<1	9.6	5.2	<0.05	<0.05
最高	<1	<1	11	6.4	<0.05	<0.05
最低	<1	<1	6.0	4.1	<0.05	<0.05
平均	<1	<1	9.4	5.5	<0.05	<0.05
測定回数	24	24	24	24	24	24
放流基準値		10		100		0.5

備考

1. 数値は各月の平均値である。
2. 各月の透視度の平均は、測定結果が100度を超えた場合、”100度”として算出してある。
3. <0.0Xは報告下限値未満であることを示す。
4. 「最高」「最低」は年間の最高値最低値である。
5. 「平均」は月平均の平均値である。
6. 放流基準値の（ ）内の数値は日間平均値を示す。

イ. 生物反応槽試験
1系-1

項目	水温 ℃	pH —	MLDO mg/L	SV30 %	MLSS mg/L	SVI mL/g	MLVSS mg/L	有機分 %	Rr mg/L·h	Kr mg/g·h
4月	19.6	6.2	1.3	27	2,340	120	1,950	83	8.4	3.6
5月	21.8	6.2	1.2	25	2,170	120	1,780	83	11	5.6
6月	23.9	6.2	1.3	23	2,000	120	1,690	84	14	7.1
7月	25.5	6.3	1.3	22	2,220	100	1,900	85	15	6.7
8月	27.0	6.3	1.3	23	2,200	110	1,840	83	14	6.3
9月	26.4	6.2	1.3	28	2,230	130	1,880	84	12	6.0
10月	24.4	6.3	1.2	33	2,440	140	2,050	84	17	6.9
11月	21.9	6.4	1.2	24	2,290	110	1,920	84	8.5	3.7
12月	19.6	6.3	1.2	27	2,690	100	2,260	85	10	3.6
1月	17.6	6.2	1.3	23	2,580	89	2,220	85	14	5.3
2月	17.0	6.2	1.2	30	2,310	130	1,960	85	14	6.1
3月	17.8	6.3	1.3	56	2,700	210	2,280	84	11	4.1
最高	27.8	6.6	2.2	71	2,970	240	2,460	86	23	9.3
最低	14.7	5.9	0.6	19	1,880	80	1,590	82	7.4	3.2
平均	21.9	6.3	1.3	29	2,350	120	1,980	84	12	5.4
測定回数	244	244	244	244	244	244	103	103	24	24

1系-2

項目	水温 ℃	pH —	MLDO mg/L	SV30 %	MLSS mg/L	SVI mL/g	MLVSS mg/L	有機分 %	Rr mg/L·h	Kr mg/g·h
4月	19.6	6.2	1.3	23	2,240	100	1,870	83	9.5	4.2
5月	21.8	6.1	1.5	29	2,310	120	1,930	83	13	5.4
6月	23.9	6.2	1.6	27	2,190	120	1,810	83	17	8.2
7月	25.5	6.3	1.5	25	2,420	100	2,070	84	15	6.2
8月	27.0	6.1	1.4	21	2,170	96	1,830	83	16	7.7
9月	26.5	6.1	1.5	39	2,370	160	1,980	83	13	5.2
10月	24.5	6.3	1.5	48	2,500	190	2,100	83	20	8.1
11月	21.9	6.3	1.5	45	2,600	170	2,190	84	9.1	3.3
12月	19.7	6.2	1.5	28	2,690	100	2,270	85	13	4.6
1月	17.7	6.1	1.3	24	2,630	92	2,250	85	15	6.0
2月	17.0	6.1	1.0	24	2,660	89	2,270	85	15	5.7
3月	17.8	6.3	1.0	27	2,860	95	2,420	85	11	3.7
最高	27.8	6.8	2.4	60	3,020	240	2,570	85	27	10.9
最低	14.8	3.0	0.7	15	1,860	80	1,580	81	8.1	3.0
平均	21.9	6.2	1.4	30	2,470	120	2,080	84	14	5.7
測定回数	243	244	242	244	244	244	103	103	24	24

1系-3

項目	水温 ℃	pH —	MLDO mg/L	SV30 %	MLSS mg/L	SVI mL/g	MLVSS mg/L	有機分 %	Rr mg/L·h	Kr mg/g·h
4月	19.6	6.2	1.6	25	2,480	100	2,090	83	11	4.4
5月	21.8	6.2	1.6	29	2,360	120	1,980	83	12	4.6
6月	23.9	6.2	1.8	33	2,290	140	1,850	83	17	8.0
7月	25.5	6.3	1.5	22	2,160	100	1,840	84	10	5.2
8月	27.0	6.3	1.3	35	2,290	150	1,920	83	15	6.5
9月	26.6	6.1	1.7	53	2,430	220	2,020	83	16	5.8
10月	24.5	6.3	1.6	50	2,520	200	2,090	83	22	8.8
11月	21.9	6.3	1.6	59	2,650	220	2,210	83	11	4.1
12月	19.7	6.2	1.6	49	2,660	180	2,220	84	13	4.8
1月	17.7	6.1	1.3	21	2,480	85	2,120	85	14	5.9
2月	17.0	6.1	1.4	21	2,590	78	2,190	85	13	5.0
3月	17.8	6.3	1.2	25	2,750	92	2,320	85	8.3	3.0
最高	27.8	6.9	2.8	77	3,050	280	2,440	85	28	11.6
最低	14.8	5.8	0.6	15	1,840	60	1,530	82	7.6	2.7
平均	21.9	6.2	1.5	35	2,470	140	2,070	84	13	5.5
測定回数	243	244	244	244	244	244	103	103	24	24

- 1 数値は各月の平均値である。
- 2 「最高」「最低」は年間の最高値最低値である。
- 3 「平均」は月平均値の平均値である。

ウ. 脱水汚泥試験

(ア)含有量試験(脱水汚泥)

項目 月	全窒素	全りん	含水率	強熱減量	発熱量
単位	mg/g-乾	mg/g-乾	%	%	J/g
5月27日	58	19	73.4	87.7	-
8月19日	43	18	75.8	88.0	18,000
11月11日	46	16	70.3	89.1	19,000
2月17日	44	13	73.8	90.1	-
最高	58	19	75.8	90.1	19,000
最低	43	13	70.3	87.7	18,000
平均	48	17	73.3	88.7	18,500
測定回数	4	4	4	4	2

備考

1. <0.0Xは報告下限値未満であることを示す。

(イ)含有量試験(しき汚泥)

項目 月	全窒素	全りん	含水率	強熱減量	発熱量
単位	mg/g-乾	mg/g-乾	%	%	J/g
1月27日	13	<1	60.7	96.8	21,000

備考

1. <0.0Xは報告下限値未満であることを示す。

(ウ)溶出試験(脱水汚泥)

項目 月	アルキル 水銀	総水銀	カドミウム	鉛	有機りん	六価 クロム	ひ素	全シアン	ポリ塩化 ビフェニル	トリクロ エチレン	テトラクロ エチレン
単位	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
5月27日	検出せず	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.1	<0.05	0.02	<0.1	<0.0005	<0.03	<0.01
8月19日	検出せず	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.1	<0.05	<0.01	<0.1	<0.0005	<0.03	<0.01
11月11日	検出せず	<0.0005	<0.01	0.08	<0.1	<0.05	<0.01	<0.1	<0.0005	<0.03	<0.01
2月17日	検出せず	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.1	<0.05	0.02	<0.1	<0.0005	<0.03	<0.01
最高	検出せず	<0.0005	<0.01	0.08	<0.1	<0.05	0.02	<0.1	<0.0005	<0.03	<0.01
最低	検出せず	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.1	<0.05	<0.01	<0.1	<0.0005	<0.03	<0.01
平均	検出せず	<0.0005	<0.01	0.02	<0.1	<0.05	0.01	<0.1	<0.0005	<0.03	<0.01
測定回数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

項目 月	ジクロロタン	四塩化 炭素	1,2- ジクロロエタン	1,1- ジクロロエチレン	シス-1,2- ジクロロエチレン	1,1,1- トリクロロエタン	1,1,2- トリクロロエタン	1,3-ジクロロ プロペン	チウラム	シマジン	チオベンカルブ
単位	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
5月27日	<0.02	<0.002	<0.004	<0.02	<0.04	<0.3	<0.006	<0.002	<0.006	<0.003	<0.02
8月19日	<0.02	<0.002	<0.004	<0.02	<0.04	<0.3	<0.006	<0.002	<0.006	<0.003	<0.02
11月11日	<0.02	<0.002	<0.004	<0.02	<0.04	<0.3	<0.006	<0.002	<0.006	<0.003	<0.02
2月17日	<0.02	<0.002	<0.004	<0.02	<0.04	<0.3	<0.006	<0.002	<0.006	<0.003	<0.02
最高	<0.02	<0.002	<0.004	<0.02	<0.04	<0.3	<0.006	<0.002	<0.006	<0.003	<0.02
最低	<0.02	<0.002	<0.004	<0.02	<0.04	<0.3	<0.006	<0.002	<0.006	<0.003	<0.02
平均	<0.02	<0.002	<0.004	<0.02	<0.04	<0.3	<0.006	<0.002	<0.006	<0.003	<0.02
測定回数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

項目 月	ベンゼン	セレン	1,4- ジオキサン
単位	mg/L	mg/L	mg/L
5月27日	<0.01	<0.01	<0.05
8月19日	<0.01	<0.01	<0.05
11月11日	<0.01	<0.01	<0.05
2月17日	<0.01	<0.01	<0.05
最高	<0.01	<0.01	<0.05
最低	<0.01	<0.01	<0.05
平均	<0.01	<0.01	<0.05
測定回数	4	4	4

備考

1. <0.0Xは報告下限値未満であることを示す。

(エ)溶出試験(しき汚泥)

項目 月	アルキル 水銀	総水銀	カドミウム	鉛	有機りん	六価 クロム	ひ素	全シアン	ポリ塩化 ビフェニル	トリクロ エチレン	テトラクロ エチレン
単位	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
1月27日	検出せず	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.1	<0.05	<0.01	<0.1	<0.0005	<0.03	<0.01

項目 月	ジクロロメタン	四塩化 炭素	1,2- ジクロロエタン	1,1- ジクロロエチレン	シス-1,2- ジクロロエチレン	1,1,1- トリクロロエタン	1,1,2- トリクロロエタン	1,3-ジクロロ プロペン	チウラム	シマジン	チオベンカルブ
単位	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
1月27日	<0.02	<0.002	<0.004	<0.02	<0.04	<0.3	<0.006	<0.002	<0.006	<0.003	<0.02

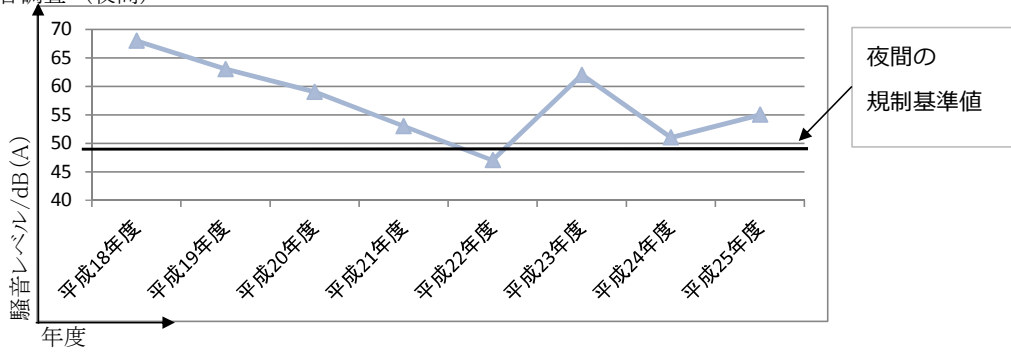
項目 月	ベンゼン	セレン	1,4- ジオキサン
単位	mg/L	mg/L	mg/L
1月27日	<0.01	<0.01	<0.05

備考

1. <0.0Xは報告下限値未満であることを示す。

(12) 周辺環境調査(宮川浄化センター)

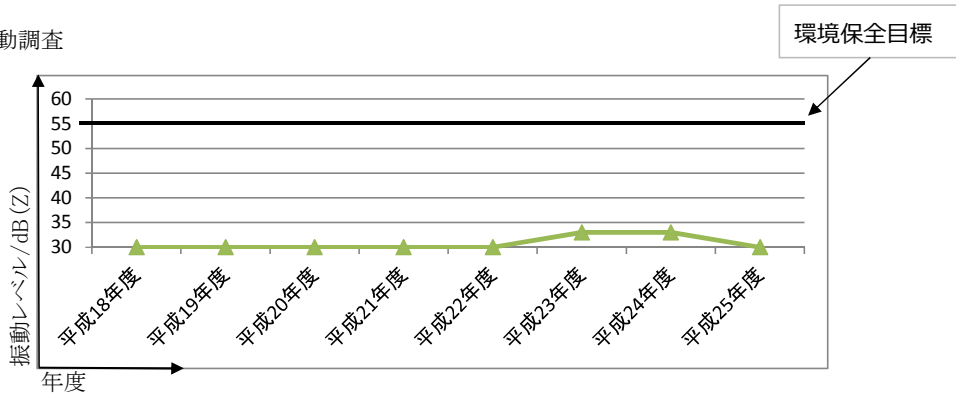
ア 騒音調査 (夜間)



(備考)

- 1.各年度における最高値(▲)を表示。
(8地点×2回/年)
- 2.三重県生活環境の保全に関する条例の「その他の地域」に該当するため夜間規制基準の50dBを基準線として表示した。
- 3.最高値は、春から夏の時期の虫等の鳴き声による影響が大きい。

イ 振動調査



(備考)

- 1.各年度における最高値(▲)を表示。
(8地点×2回/年)
- 2.周辺住居地域において55dB以下を環境保全目標としているため、55dBを基準線として表示した。
- 3.測定下限値未満の数値については、測定下限値の値をプロットした。

ウ 低周波音調査

1.1/3オクターブバンド音圧レベル

(春季)

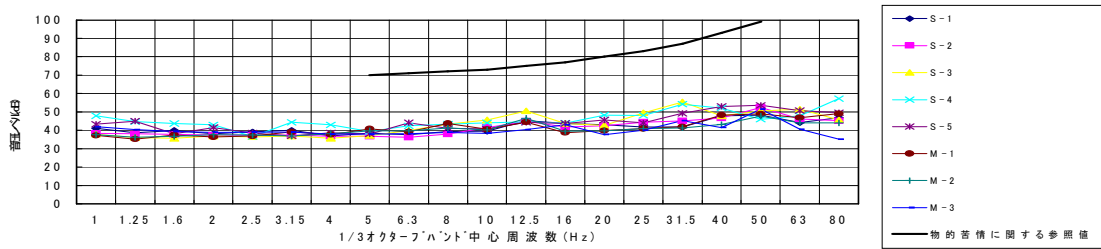
調査地点		中心周波数 (Hz)																	単位: dB			
		1	1.25	1.6	2	2.5	3.15	4	5	6.3	8	10	12.5	16	20	25	31.5	40	50	63	80	A.P.
敷地境界	S-1	41	39	40	38	39	40	37	39	38	39	40	45	44	43	42	42	48	48	44	47	56
	S-2	38	38	38	37	37	38	37	37	36	38	42	45	42	43	44	45	47	52	46	45	57
	S-3	38	36	36	37	36	37	36	37	40	43	46	51	44	43	50	55	48	51	52	46	60
	S-4	48	45	44	43	37	44	43	39	42	43	44	45	44	48	48	54	52	46	48	57	62
	S-5	43	45	38	42	39	37	39	38	44	41	41	44	44	46	44	49	53	54	51	50	60
直近民地	M-1	37	35	38	36	37	39	38	41	39	44	41	45	39	40	41	42	48	49	47	49	56
	M-2	38	36	37	38	37	37	38	40	40	41	40	47	40	40	41	41	43	48	44	44	55
	M-3	42	40	39	39	39	39	38	38	38	39	38	40	43	38	40	45	42	52	41	35	55
物的苦情に関する参照値									70	71	72	73	75	77	80	83	87	93	99			

※単位はdB

※A.P.は1~80Hzの全音圧レベルを示す。

※測定は5月16日10時~5月17日8時の間で騒音振動測定と同時にを行い、風、自動車、飛行機等の影響が最も少ない時間帯のデータを採用した。

※低周波音レベル計の高さは、風による測定値への影響を避けるため地上0mにて測定した。



(秋季)

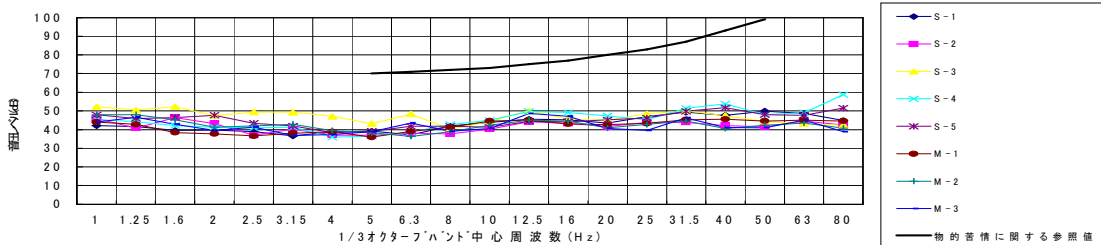
調査地点		中心周波数 (Hz)																	単位: dB			
		1	1.25	1.6	2	2.5	3.15	4	5	6.3	8	10	12.5	16	20	25	31.5	40	50	63	80	A.P.
敷地境界	S-1	42	42	40	40	39	37	39	39	37	42	44	46	45	44	47	49	48	50	49	45	58
	S-2	46	41	47	43	37	40	37	37	38	38	40	44	43	42	44	44	42	42	45	43	55
	S-3	52	51	52	48	49	49	47	43	48	40	44	50	46	45	49	50	48	44	43	42	61
	S-4	45	44	42	41	41	41	36	37	39	43	45	50	49	47	45	51	54	48	49	59	62
	S-5	48	46	47	48	43	42	38	39	42	42	41	44	44	45	46	50	52	48	48	52	60
直近民地	M-1	44	43	39	38	37	38	39	36	39	41	45	45	43	43	43	45	46	45	45	45	56
	M-2	48	48	45	41	42	43	39	38	36	39	42	45	45	41	43	45	41	42	44	41	56
	M-3	44	47	43	40	41	37	37	39	44	39	41	49	47	41	40	46	41	41	45	39	56
物的苦情に関する参照値									70	71	72	73	75	77	80	83	87	93	99			

※単位はdB

※A.P.は1~80Hzの全音圧レベルを示す。

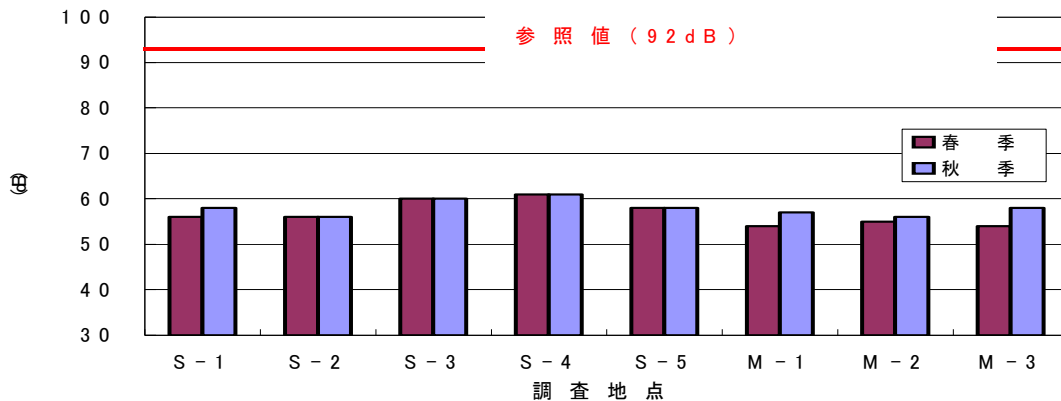
※測定は10月15日10時~10月16日8時の間で騒音振動測定と同時にを行い、風、自動車、飛行機等の影響が最も少ない時間帯のデータを採用した。

※低周波音レベル計の高さは、風による測定値への影響を避けるため地上0mにて測定した。



2.G特性音圧レベル

G 特性 音圧レベル



(備考)

心身の苦情に関する参照値92dBを基準線として表示した。

エ 悪臭調査

(ア)官能試験

項目	年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
臭気指数		29	21	20	15	27	30	25	21

(備考)

1.各年度における最高値を表示(12地点×2回/年)。

(イ)機器試験

(単位:ppm)

項目	年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
アンモニア		<0.1	0.2	0.4	0.1	0.2	<0.1	<0.1	<0.1
メチルメルカプタン		<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
硫化水素		0.028	<0.002	<0.002	0.004	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
硫化メチル		<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.0009	<0.0009	<0.0009
二硫化メチル		<0.0009	<0.0009	<0.0009	<0.0009	<0.0009	<0.0009	<0.0009	<0.0009
トリメチルアミン		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル酪酸		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0001	<0.0001	<0.0001
ノルマル吉草酸		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.00009	<0.00009	<0.00009
イソ吉草酸		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0001	<0.0001	<0.0001

(備考)

1.各年度における最高値を表示(12地点×2回/年)。

2.他に放流水中の悪臭4物質の試験(メチルメルカプタン、硫化水素、硫化メチル、二硫化メチル)を実施している(2回/年)がすべて報告下限値未満であった。

オ 水質調査
生活環境項目

(単位:表示の無いものはmg/L)

項目	年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
透明度 (m)		2.0	1.5	1.5	1.0	1.3	1.5	0.7	1.0
pH (-)		7.9~8.2	7.9~8.3	7.8~8.0	7.8~8.1	7.8~8.1	8.0~8.1	7.9~8.1	7.9~8.1
溶存酸素		5.8~9.6	5.8~10	5.5~9.7	5.2~9.4	5.0~10	6.9~10	5.8~10	5.8~9.2
COD		3.0	3.0	2.9	3.1	2.5	3.2	2.7	2.0
全窒素		0.64	0.4	0.38	0.44	0.56	0.36	0.47	0.34
全りん		0.094	0.06	0.07	0.043	0.050	0.054	0.055	0.055
残留塩素		<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.01	0.018	0.020	0.015
浮遊物質		12	4	8	5	4	23	8	10
大腸菌群数(MPN/100ml)		5,400	940	1,300	350	1,700	1,100	2,400	490

(備考)

- 放流口付近(St.12)における各年度の最高値。
(5地点×4回/年。ただし、透明度は最低値、pH・溶存酸素は範囲を表示。)
- 他に健康項目等28項目の調査をSt.Aにて実施している。全て環境基準に適合していた。

カ 底質調査
乾泥あたり含有量

(単位:表示の無いものはmg/kg)

項目	年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
C O D (mg/g)		6	5	4	7	7	13	7	7
n-ヘキサン抽出物質		83	200	200	100	51	270	90	290
カドミウム		<0.1	0.1	<0.1	0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
全シアン		<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1
鉛		10	15	5	12	12	6	7	7
六価クロム		<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1
砒素		3.6	3.5	5.9	2.3	1.8	5.0	4.4	5.0
総水銀		2.60	0.18	0.33	0.68	0.33	0.15	0.55	0.80
アルキル水銀		<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
ポリ塩化ビフェニル		<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
全窒素 (mg/g)		1.0	0.4	0.3	0.7	0.7	0.6	0.4	0.4
全りん (mg/g)		0.30	0.40	0.30	0.30	0.30	0.3	0.3	0.3
硫化物 (mg/g)		0.06	0.10	0.08	0.28	0.05	0.05	0.05	0.11
含水率 (%)		25.6	24.7	28.0	25.3	26.5	24.9	24.9	24.1
強熱減量 (%)		2.8	3.0	2.8	3.4	3.4	3.7	3.4	3.5
ダイオキシン類(pg-TEQ/g)		3.0	3.0	3.2	3.7	3.6	2.9	1.8	2.2

(備考)

- 放流口付近(St.13)における調査結果(1地点×2回/年)のうち最高値。
- 他に溶出試験7項目(カドミウム、鉛、砒素、総水銀、アルキル水銀、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン)を実施している。すべて報告下限値未満であった。